

平成30年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 富洲原の魅力再発見

地区名 富洲原

1. 望まれる地域の姿

「ひと」のつながりが深く、「まち」の幸福度が高く、「まち」の魅力が「まち」へのひとの流れを生んでいる。

【かつての富洲原への回帰】

「人情敦厚にして性質単純活潑而も熱情に富み他を愛すること己のごとく、為に他地方人士の来往するもの何れも其の住みやすきを嘆称す」

(大正 12 年の富洲原町案内の記述)

2. 地域の現状

- ・人口が逡減、特に若年人口の減少が著しく、高齢化に拍車が掛かっている。
- ・都市のスポンジ化が進んでおり、空き家が増加。
- ・地場産業の後継者不足による後退。
- ・保幼小中と同じ顔触れで過ごす人が大半で、外部からの刺激が少ない。

3. 課 題

- (1) 地域の高齢化、人口流出により地域のつながる力が弱まっている。
- (2) 地域の個性がかつての合併、都市化により埋没。
- (3) まちづくりの担い手不足、若者、よそ者（外からの視点）の不在。
- (4) まちづくり構想が未策定⇒まちづくりの方向性について、明文化されたものがない。

4. 実施内容

(1) 「まち」の個性や魅力を再発見し、共有する

地域で維持してきた歴史文化施設の継承策に繋げられるよう、地区内の史跡等を掲載した「富洲原の魅力再発見マップ」を製作し、地区内に全戸配付した。【新規事業】

(2) 「まち」に「ひと」を呼び込む

富洲原では旧町名が自治会名として残り、地区内で生活する上で公称町名同様に旧町名の理解が求められる。そこで、地区内住民だけでなく、他地区からの来訪者にも役立つように、「自治会と旧町名」看板を製作し、地区内 3 カ所の公会堂などに設置した。【新規事業】

(3) 「まち」「ひと」のつながる力をつける

- ① ホームページや Facebook 等を活用した地域情報の発信を随時行った。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
「富洲原の魅力再発見マップ」の製作	需用費	640, 440	印刷製本費
「自治会と旧町名」看板の製作	委託料	501, 120	
〃	需用費	32, 400	印刷製本費
合 計		1, 173, 960	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
歴史部会及び HP 委員会での検討回数	10 回	10 回

7. 成果

地区まちづくり協議会（歴史部会）と地区社会福祉協議会（ホームページ委員会）が主体となり、地域住民による地域住民のための「富洲原の魅力再発見マップ」及び「自治会と旧町名」看板を製作することができた。

8. 今後の展開

今後も、地域が必要とするものを地域の声として汲み上げ、地域の手によって作り上げていく。

館長権限予算実績報告（写真資料） 富洲原地区

(1)「まち」の個性や魅力を再発見し、共有する

地域で維持してきた歴史文化施設の継承策に繋がられるよう、地区内の史跡等を掲載した「富洲原の魅力再発見マップ」を製作し、地区内に全戸配付した。



(2)「まち」に「ひと」を呼び込む

富洲原では旧町名が自治会名として残り、地区内で生活する上で公称町名同様に旧町名の理解が求められる。そこで、地区内住民だけでなく、他地区からの来訪者にも役立つように、「自治会と旧町名」看板を製作し、地区内3カ所の公会堂に設置した。



【写真】 左上：富田一色公会堂
右上：天カ須賀公会堂
左： 松原公会堂
(計3カ所)

平成30年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名

にぎわいのある文化の薫るまち富田
をめざして

地区名

富田

1. 望まれる地域の姿

花と緑のあふれる公園・憩いの広場・十四川の桜並木・運動広場等を充実させ、二世帯住宅の可能な環境整備をすすめ、活気があって住みやすい、すばらしいまちとなり、徐々に若者が増える活力あるまちになる。

加えて、高齢者への対策が充実し、まつりの振興を核にした、にぎわいづくりを通じて潤いと活力あるまちになる。

2. 地域の現状

- ① 桜の時期には、多くの方が訪れ、地区では『十四川桜まつり実行委員会』を立ち上げお迎えすることで、大変賑わっているが、管理については『十四川と環境を守る会』により、簡易な剪定や老木の伐採が行われている。
- ② 富田には多くの文化行事や史跡があるが、消失しているものもある。また継続しているものであっても、他地区に情報発信されておらず、無名に等しい。この一方で、現時点で高齢であるものの、各行事や史跡について、深い知識をもった方がお見えになる。
- ③ 『富田地区まちづくり構想』が平成20年4月に作成され、10年が経過している。

3. 課題

- ① 『十四川と環境を守る会』が保全に努めているが、計画性がなく場当たりのためであり、また十四川の桜は老木が多く、適正な管理を行わないと将来にわたって桜並木を保全できない。
- ② 富田の伝統文化や史跡があるが、地区内の住民であっても、文化の由来や存在を知らず、富田の魅力を理解していない。この結果、他地区へ発信がなされず富田の魅力が発揮されていない。また、深い知識を持った方が高齢であるため、知識の継承を早急に行う必要がある。
- ③ 『まちづくり構想』は、今を生きる大人が構想したものである。このため、次時代を担う子供たちの意見が反映されたまちづくり構想となっていない。また社会情勢の変化に伴い、新たなまちづくりにおける課題が生じており、見直しが必要である。

4. 実施内容

- ①みどり豊かな住みよい環境整備（十四川の桜並木保存） 1年目
樹木診断
下記の管理計画を策定するにあたり、樹木の現状を把握するための樹木の診断を行った。
樹木管理計画策定
十四川堤防の桜を将来にわたり保全するため、樹木診断書に基づき管理計画を策定した。
- ②伝統文化を活かしたまちづくり(案内人の養成) 1年目
 - ・ 富田地区の伝統文化・歴史・史跡について、講師を招き学問的見地にたった講義を行っていただき、地区住民が富田地区を深く学ぶ機会を設けた。(第1回)
 - ・ 富田のまちあるきを行い、行事や史跡に深い知識を持った地元講師から、由来や謂れを学ぶ機会を設けた。(第2回)
- ③豊かなコミュニケーションのもと、住民参加で進めるまちづくり（中学生による意見発表会） 2年目
 - ・ 6人の中学生が意見発表者となり、まちづくりに関しての意見が発表された。
 - ・ 発表された意見に基づき、中学生と地区代表のまちづくり協議会会長、連合自治会会長、社会福祉協議会会長等が討論を行った。
 - ・ その際、中学校長が進行役を行うことで、活発な意見交換がなされた。
 - ・ 意見発表会資料を冊子に取りまとめ、中学生（PTA）及び教員、自治会等の地区団体へ配布した。

5. 経費

金額単位:円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
1.みどり豊かな住みよい環境整備	その他委託料	237,000	
	その他委託料	462,240	
2.伝統文化を活かしたまちづくり	その他委託料	107,000	
3.豊かなコミュニケーションのもと、住民参加で進めるまちづくり	その他委託料	219,000	
合 計		1,025,240	

※ 詳細別紙

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
①桜調査本数	450 本	428 本
②案内人養成講座参加希望者数	5人	5 人
③意見発表者	6人	6 人

7. 成果

- ① 桜並木の管理計画が立案されることで、効率的維持管理を行うことができ、限られた人的資源を有効に活用することが可能となった。
- ② 講義に参加した住民が、富田地区の魅力を認識することができた。この結果、富田地区への愛着がより増し、富田地区をどう PR するかを考えていくのかを雰囲気が醸成された。
- ③ 既成概念に囚われない中学生と地域の大人たちが討論を行い、双方が触発された。この結果、策定から 10 年が経過した『富田地区まちづくり構想』の見直しに向けた気運が、より高まった。また構想に幅広い世代の考えが取り入れられることが期待される。

8. 今後の展開

- ① 管理計画だけでは、適正な維持管理が実施されないため、専門家の知識を借り伐採、剪定、施肥等の手法を、地元団体が学び効率的な維持管理が出来るように手助けを行っていく。
- ② PR への雰囲気が醸成された講義参加者が、富田の魅力を多くの方に知っていただくために、積極的に情報発信していくように導く。またこの PR により、魅力を知った他地区の方が、より深く富田の魅力を知っていただくため、講義参加者や地区希望者による史跡等を案内する人を養成する講座を開催していく。
- ③ 『富田地区まちづくり構想』の見直しに向けた気運を逃さないように、地区に働きかけを行う。併せて関係部局へ働きかけを行っていく。引き続き幅広い世代の意見を汲み取るために、討論会を開催していく。

伝統文化を活かしたまちづくり

第1回



第2回



豊かなコミュニケーションのもと、
住民参加で進めるまちづくり



平成30年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	来訪者おもてなし及び地域交流事業	地区名	羽津
-----	------------------	-----	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
地域の人材や史跡を掘り起こし、これを活用するとともに、地域の人々の交流をさらに活発化することにより、安心して暮らすことが出来、子育てしやすいまちとする。	羽津地区は他地区から転入してきた住民が多く、また、地域住民の交流も少ない。 地域のまちづくり活動は活発であるが、次世代の後継者を育成する必要がある。
3. 課題	
地区内では転入者のエリアと旧の在所のエリアが分かれており、世代間や地域間での人のつながりが希薄である。また、さまざまな事業やイベントを開催しているが、団体スタッフ等は固定化されてきており、後継者の育成が必要となってきた。よって、地域に愛着を持ち、様々な人々がふれあう機会を提供し、交流を図ることにより、人材発掘のきっかけとする必要がある。	
4. 実施内容	
① <u>郷土芸能「羽津音頭」の普及【2年目】</u> 昭和20年代後半に羽津地区内で盛んに踊られていたが、近年踊る場所や機会がなく、忘れ去られた存在となっていた「羽津音頭」を復活させ、若い世代の方々にも踊りやすい新調の音頭「新羽津音頭」を作成したのに引き続き、「新羽津音頭」普及のため、地域のサークル等の集まりの場で講習会を行った。また、お揃いの法被やうちわにて正装した踊り手により、8月11日開催の「志氏神社盆踊り」や、9月8日、9日開催の「四日市徹夜おどりの祭典～よんてつ～」で披露することで、地区内に「新羽津音頭」を広く浸透させた。 ② <u>まちづくりを支える次世代後継者の育成支援【3年目】</u> 「防災サバイバル体験」として、子ども自身が、事前準備会議を通して、子ども同士で災害や防災について考え、実際の避難所の生活の一端を疑似体験（防災マップ作製、非常食炊飯、屋外テントでの宿泊体験）することで、防災の大切さや災害の怖さを知るとともに、大人たちがまちづくりにどのように関わっているか、地区の安全をどのように考えているかを学んだ。また、この行事を通じて、大人と子どもの交流やコミュニケーションの促進を図り、次世代後継者の育成、地区全体としての防災意識の向上、災害に強いまちづくりへの支援を行った。 対象者： 小学校高学年及び中学生 開催場所： 羽津北小学校及び羽津地区市民センター 講師： 防災一座 松野博氏、三重大学大学院工学研究科准教授 川口淳氏 ③ <u>史跡説明看板の設置【新規】</u> 地区内の2カ所の史跡に説明の看板を設置することにより、「来訪者へのおもてなし」を充実した。設置場所については、連合自治会、まちづくり推進協議会の合意のもと、まちづくり構想委員会に選定を依頼した。また、看板に掲示する説明内容については、郷土史と民俗研究会の協力を得て決定した。 ④ <u>子育て講座の開催【新規】</u> 妊婦や子育て中の母子を対象に、ベビーマッサージや離乳食づくりなどの講座を15回開催し、必要な知識を習得してもらうとともに、楽しく子育てできる環境づくりを行った。	

5. 経費

金額単位:円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
羽津音頭	委託料	373,634	講師料、PRグッズ
防災サバイバル	報償費、賃借料、消耗品費	285,710	講師料、テントレンタル、食材等
史跡説明看板設置	委託料	237,600	看板製作及び設置
子育て支援講座	委託料	176,432	講師料、消耗品
合 計		1,073,376	

※ 詳細別紙

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
羽津音頭講習会参加者	50 名	140 名
防災サバイバル参加者	60 名	65 名(児童生徒 31 名、 スタッフ 34 名)
史跡説明看板設置数	3 カ所	2 カ所
子育て講座参加者数	のべ300名	のべ100名

7. 成果

「新羽津音頭」を羽津盆踊り等の行事で老若男女、皆で踊ることにより、地域の一体感が醸成された。

防災サバイバル講座では、子供たちが製作した防災マップには各班の個性が出ており、講師の方々も感心するものがあつた。また、屋外に設置したテントに宿泊することは、貴重なサバイバル体験となった。

史跡説明看板の設置により、地域の名所旧跡の再認識がなされ、地域への愛着意識の向上につながった。

子育て講座を実施し、楽しく子育てできる環境づくりを実践できた。

8. 今後の展開

「新羽津音頭」を地区の盆踊りをはじめ、徹夜踊りでも披露することができ、地域の一体感を向上させるアイテムとして今後も利用していく。

防災サバイバルは、児童生徒自身で体験し、実行することを重視した講座内容であり、これをスタッフがサポートすることにより、全世代での防災意識の向上を図ることができるとともに、世代間交流が行われ後継者育成のきっかけとなるものとなったことから、今後は地域団体によって継続実施される。

史跡説明看板の設置を名所旧跡に注目するきっかけとすることにより、地域への愛着の醸成につながっていく。

「子育てするなら四日市」をリードする地区となるとともに、赤ちゃんから高齢者までが一体感をもって、楽しく安心して暮らせるまちとなるよう事業を展開していく。

○新羽津音頭講習会



○氏氏神社盆踊り



○四日市徹夜踊りの祭典～よんてつ～



○防災サバイバル



○離乳食づくり



○ベビーマッサージ



平成30年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 地域ふれあい推進事業

地区名 常磐

1. 望まれる地域の姿

地域の連帯意識の高揚を図り、心のふれあう魅力ある常磐地区

2. 地域の現状

常磐地区は都市化が進み、マンションや賃貸住宅の増加に伴い、流動人口も多く、地域の一体感が醸成されにくくなりつつある。

地区全体では、自然や名所・旧跡、特産品などの観光目的で他地域から訪れる方は多くなく、住宅地として市の人口の約9%を占め、人口密度も本市の平均の4倍近くになっている。また、年齢別人口比率では、本市平均より64歳以下の構成比が高い。

3. 課題

都市化の進行等により、地域が一丸となって取り組むべき防災対策事業などの推進が困難になる恐れがある。このことから、地域の一体感を高めることで、地域力を強化することが急務となっている。

4. 実施内容

1 常磐地区マスコットキャラクターを用いた地域の活性化事業について【新規】

(1) 推進プロジェクト会議の開催について

マスコットキャラクターによる地域の活性化について、地域での合意形成を得るため、平成29年度末から、まちづくり協議会（構成団体：連合自治会、社協、小中学校PTA、民生委員児童委員協議会、防災協議会、人権同和教育推進協議会、体育振興連絡協議会等）において常磐地区全体として取り組んでいくことが確認され、関係団体から選出された推進プロジェクトチームによる検討を16回実施した。（2月末現在）

(2) マスコットキャラクターの作成について

- ・デザイン、名称「ときはちゃん」の決定
- ・着ぐるみの作成

(3) マスコットキャラクター「ときはちゃん」の活用について

- ・常磐ふれあいまつり（文化祭）での発表
- ・地区ホームページや地区広報での周知
- ・啓発物品を作成・啓発
- ・イベントや啓発物品配布時において、「ときはちゃん」の参加によるPR
- ・関係団体発行物等への記事掲載等

2 関係機関との連携による人材育成について【新規】

(1) 四日市医師会との連携

常磐地区内に診療所を開設する医師を派遣してもらい、災害時における市の医療救護所設置、医師会の対応予定、避難所内に住民が開設する救護所活動訓練の必要性、その活動時の心構え等の講義のほか、実際の救護所活動の指導を通じ、避難所から医療救護所へ引き継ぐ様式の作成など、地区の救護所活動に携わる住民の人材育成等を行った。

(2) 四日市市保健所との連携

大規模災害時の避難所において、当地区では民生委員が避難者の健康確認等を行うこととされているが、長期化した場合、保健所保健師が健康観察に避難所を回ることになる。その際、双方の取り組み方に差異があると活動に支障が出ること及び保健所も実際の避難所での活動実績が少ないことから、常磐地区の避難所設営訓練に参加し、協働して活動訓練にあたり、双方の人材育成及び能力向上に努めた。

3 青少年の人材育成（常磐地区防災力の向上について）【新規】

こども防災研修会の開催について

- ・有識者による避難所設営訓練を通じた防災研修会を実施した。
常磐小学校5年生を対象として研修を行い、被災時の避難所設営訓練を通じて、小学生の時から地域の防災活動を意識づけた。
- ・保護者も参加して災害時の活動と一緒に学び、家庭での防災意識や防災力の向上につなげた。
- ・地区防災協議会の方や地域の方に様々な役を行っていただき、地域一体となった防災研修会を実施することができた。
- ・子供のための防災用品等を展示し、啓発を行った。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
1 マスコットキャラクターによる地域の活性化	委託料	496,800	着ぐるみ作成委託
		192,240	啓発物品作成委託
	(小計)	689,040	
2 関係機関との連携による人材育成について	報償費	30,000	医師報償費
	(小計)	30,000	
3 青少年の人材育成（常磐地区防災力の向上について）	報償費	90,000	医師・大学教授報償費
	需用費	15,984	災害用トイレ子供用ヘルメット
	(小計)	105,984	
合 計		825,024	

※ 詳細別紙

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
マスコットキャラクター作成への関係児童の参加	50%	常磐小 5.6 年生 259 人 常西小 5.6 年生 277 人 311/536=58. 0%
マスコットキャラクターアンケート (常磐まつり時実施)	「良い」の割合80%	とても良い81 良い38 普通8 悪い0(計128人) 119/128=93. 0%
防災研修会アンケート (児童及び保護者等実施)	「良い」の割合80%	児童: 良い102、普通19、悪い0(計121人) 大人: 良い32、普通4、悪い1(計39人) 134/160=83. 8%
災害訓練参加者数	昨年(300人)比100人増	今年度参加者数303人

7. 成果

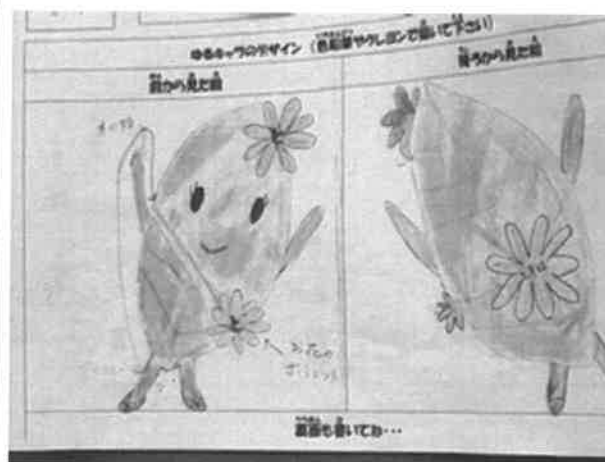
- 常磐地区マスコットキャラクターによる地域の活性化事業
 - ・地域内団体の交流推進
 - ・地域イベントの活性化

8. 今後の展開

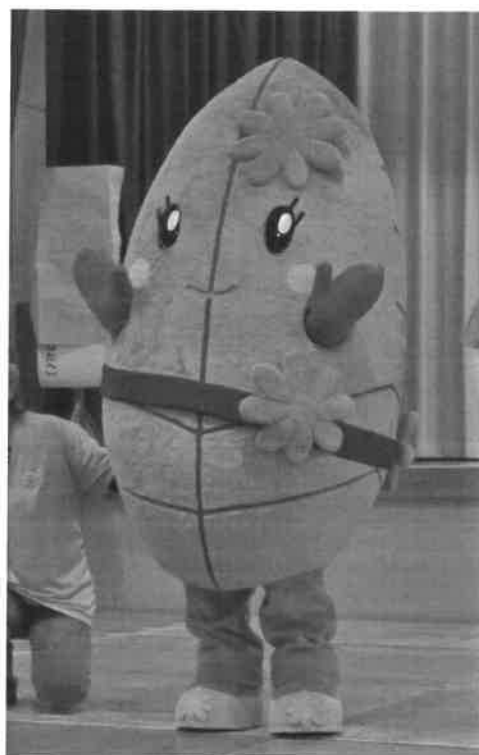
- 常磐地区マスコットキャラクターによる地域の活性化事業
 - ・各団体の発行物への「ときはちゃん」掲載や「ときはちゃん」を入れた看板等の設置等
 - ・作成したマスコットキャラクターを活用したPRを推し進め、着ぐるみを各イベント時に使用し、啓発活動を行う。

2 関係機関との連携による人材育成について ・関係団体との連携強化による連携の円滑化及び連携の重要性の認識 3 青少年の人材育成（常磐地区防災力の向上について） ・小学生の防災意識・防災力向上 ・家族の防災意識・防災力向上	2 関係機関との連携による人材育成について ・今回は防災に関する関係機関との連携となったが、当地区では防災が大きな課題の一つであり、今回の連携は継続したい。また、他の分野についても関係機関との連携により、地区における人材育成を行っていきたい。 3 青少年の人材育成（常磐地区防災力の向上について） ・子どもの育成については、来年度に向けて課題等を改善し、小中学生の活躍の場を広げることにより、地域活動への参加、理解を深める。
--	--

1. マスコットキャラクターを用いた地域の活性化事業について
 (1)「プロジェクト会議 (マスコットキャラクター選考会)」



1. マスコットキャラクターを用いた地域の活性化について
(2)「ときはちゃんデビュー (常磐まつり)」



2. 防災力の向上について

(1) 防災訓練における関係機関との連携について【四日市医師会】



(1) 防災訓練における関係機関との連携について【四日市市保健所・四日市医師会】



2. 防災力の向上について

(2) こども防災研修会





平成30年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	日永地区の自然資源の魅力アップ&住民による防災・福祉地域力パワーアップ推進事業	地区名	日永
-----	---	-----	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
①生活の各方面（交通・商業施設等）に恵まれ、地域住民が便利というだけでなく、地元を誇りに思える地域。 ②大型の災害にも対応し、必要となった時には整然と避難所生活に対処できる地域。 ③福祉の面でも自らの課題を把握でき生活の質向上に取り組める地域。	①商業施設、交通手段（広い幹線道路、あすなろう鉄道等）や東海道をはじめとする史跡にも恵まれているが、自然資源のプロモーションにもう少し注力が必要。 ②地域の東側は海拔が低く、津波の被害を受けやすい。西方面には地下断層が走っている。 ③地区人口が多く、福祉に関するニーズの掘り起しが未着手であり、地域包括ケアのBメニューの策定ができていない。

3. 課題
①自然を楽しむスポットもあり、史跡にも恵まれているが、案内の看板等がまだ不足しているため、繰り返し訪れる人を誘引する仕掛けが求められる。また、こういった資源を身近なものとして維持管理に協力してくれるボランティアメンバーの確保に対する取り組みが求められている。 ②地区防災訓練で段ボールを使った簡易トイレの製作訓練及び女性の視点での防災学習が必要である。 ③福祉に関するメニューを策定していくにあたり、まず地域のニーズの掘り起しの手法の学習が必要である。

4. 実施内容
①これまでに取り組んだ南部アルプス縦走路充実の結果、散策した来客から改善すべき意見として得られた、登城山山頂の遠景を紹介する看板の設置により縦走路の魅力アップを図る。 また、縦走路の起点を西日野駅のみならず、あすなろう鉄道の日永駅を起点とする縦走路入口までの案内資料を作成する。 四日市農芸高校の協力を得て作り上げた梅を使った料理レシピを簡単なブックとしてまとめ、イベントの来客に広く知ってもらい梅に対する愛着を深め、育樹の参加者の広がりを目指す。 ②昨年度から避難所設営訓練に取り組んでいるが、より実質的な段ボールを使った簡易トイレづくりを訓練に取り込み、さらに女性の視点を入れた学習も計画する。 ③地域の福祉ニーズを掘り起こす手法を身につけるための研修を開催し、地域での包括ケアの充実を図る。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
自然資源の魅力アップ	印刷製本費	70, 200	MAP印刷
〃	委託料	200, 000	梅レシピブック作成
〃	委託料	496, 800	登城山山頂看板設置
ダンボールトイレ訓練	消耗品費	133, 376	段ボール等材料他
防災講座	報償費	7, 000	講師報償費
〃	消耗品費	12, 904	講座資料印刷用消耗品
合 計		920, 280	

※ 詳細別紙

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
育樹事業の新規スタッフ	5名以上	8名
縦走路歩こう会随同行ボランティア人数	10名	8名
ダンボールトイレ訓練指導担当者数	20名以上	35名

7. 成果

日永梅林の魅力アップにはH28年度から取り組み、概ね当初想定していたレベルまで整備が進んだと考える。

防災については、女性の観点を活かした講座の開催により、備蓄品の見直しと短期での入替えを普段から行う意識の向上に効果があった。

H29年度に作成した東海道の紹介MAPについて郷土資料館の開館時間に変更になったため、急遽修正用シールを印刷し貼付にて対応した。

8. 今後の展開

シティプロモーションについては、実施済みの分野ではハード整備に努めてきたことから、今後はイベントの効果的な開催などについて、センターとしても協力することによりプロモーションの盛り上げを図っていきたい。

防災については、さらに新たな取り組みについては計画段階から関与して取り組んでいきたい。

地域包括ケアの面は講師の選定などで手間取り、年度内に実施できなかった。講師候補は決まったので、新年度で是非取り組み、地域力の向上に役立てたい。

その他新規の事業を検討している団体の計画はまちづくり推進協の場で問いかけ、提案を聞き取り、新しい切り口を検討していきたい。



山頂看板



梅レシピ



南部アルプス縦走路 MAP



防災訓練時 ダンボールトイレ製作の実習



女性の視点での防災研修会

平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名 四郷地区ふるさと・ふれあい事業

地区名 四郷

1. 望まれる地域の姿

地域を知り、人とふれあうことで、郷土に関心と愛着を持つ人が増え、住民活動が安定・活発に行われて、住民誰もが安全安心に暮らすことができ、生涯住み続けたいと思う地域になる。

2. 地域の現状

四郷：明治時代には近代産業が発展した地域で、風致地区の自然を含め、様々な地域資源が存在する。

笹川：大規模団地であることや、URや県営の大規模集合住宅には外国人居住者も多いことから、近所づきあいが少なく、人と人とのつながりが希薄である。

高花平小林町：高花平は県下初的大型住宅団地で、老朽化と少子高齢化が著しく、特に市営住宅は空き家が増える一方で、地域コミュニティとして存続が危ぶまれている。

3. 課題

四郷：地域の誇りとなる特色ある地域資源が多数存在し、古くからの住民は地縁によるつながりが強い。しかし、新たに転入した住民や若い世代の住民には認知度が低く、地域への思いは希薄になっている。

笹川：県下最大級の団地であり、その大きさから笹川全体とした一体感や地域への愛着心が高くなく、顔の見える関係が作りにくい。

高花平小林町：まちの活性化を目指す連合自治会を始めとする地域団体の取組みをさらに進める必要がある。

4. 実施内容

四郷：四郷ふるさと事業

・「歩こう“四郷里山の四季”推奨事業」【新規】

市内唯一の風致地区である四郷の里山にもっと親しんでもらうため、四季を通じての里山の良さを周知するとともに、散策を推奨した。

①案内地図看板及び誘導看板の設置

案内地図看板2枚及び誘導看板7枚を設置し、誰もが散策しやすくした。(12月4日設置)

②パンフレットの作成及び配布

風致地区の散策路と四季の見所を紹介するパンフレットを作成し、四郷地区市民センター、四郷郷土資料館、あすなろう鉄道四日市駅、同西日野駅に設置するとともに、③の写真展の来場者に配布し、散策を推奨した。

③風致地区の四季の見所を紹介する写真展の開催

風致地区の四季の見所の写真を集め、パネルを作成して写真展を開催した。また、写真展の案内及び風致地区散策の推奨のためのチラシやはがきを作成し、四郷地区全体に呼びかけた。

(2月1日～2月11日開催、311人来場)

笹川：笹川住民ふれあい事業

・「こども交流事業」

①ストラックアウト大会【2年目】

東西2つの小学校区を持つ笹川の子どものための交流を図るため、スポーツ(ストラックアウト)大会を開催し、一同に集まって競技を楽しみ、大会後は交流会も実施した。(5月20日実施、200人参加)

今年度は2年目となるが、幼児用のストラックアウト台を追加し、スムーズな進行ができるようにした。

②サイエンスで交流しよう【新規】

来年3月に笹川東小学校と笹川西小学校は閉校となり、両校は統合され、笹川東小学校を用いて新しく笹川小学校が開校する。両校の児童を対象にサイエンスショーを開催し、科学の知識・関心を持つよう共に学習しながら交流することで、一体感を醸成した。併せて、笹川西小学校児童には、笹川東小学校になじんでもらう機会となった。

また、両校区の保護者が計画及び実行において参画し、児童だけでなく保護者間の一体感も醸成した。(11月25日実施、111人参加)

高花平小林町：高花平小林町まちづくり推進事業【新規】

市営住宅では古い空き家を処分し、民間に分譲していくことが決まっている。また、高花平小学校も老朽化しており、平成32年度から校舎の改修が始まる予定であり、まちの変革が進みつつある。継続的、計画的なまちづくり活動を行うにあたり、ドローンを活用して現時点のまちの状況を映像で記録した。また、経年比較できる航空写真、現状のまちの祭りやイベントの記録写真を入手し、ドローン映像と合わせて記録資料として整備した。

また、地区文化祭でドローン映像を映写し、航空写真や祭り、イベントの記録写真を展示して、広く住民に発表した。(地区文化祭10月28日開催)

さらに、高花平連合自治会や小林町自治会では、ドローン映像を視聴して現状の検証を行い、高花平小学校でも地域学習に活用した。(高花平連合自治会12月17日15人参加、小林町自治会12月17日22人参加)

高花平では、今後も当記録資料を「明るいまちづくり推進協議会」でまちの変わっていく様子を比較・検討するための材料とし、「団地再生」の取組みに活用する。

小林町においても2020年に開墾150年を迎えるに当たり、当記録資料を活用し、地域の研究を始める。

5. 経費

金額単位：円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
四郷ふるさと事業(事業実施)	委託料	234,220	四郷ふるさと実行委員会
四郷ふるさと事業(看板製作)	委託料	165,780	ゴトウ看板
笹川住民ふれあい事業(事業実施)	委託料	400,000	笹川地区協議会
高花平小林町まちづくり推進事業(事業実施)	委託料	50,080	高花平小林町連合自治会
高花平小林町まちづくり推進事業(ドローン映像・航空写真資料製作)	委託料	349,920	(株)サーブ
合 計		1,200,000	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
四郷 地域従事者のべ人数	60人	75人
笹川 ストラックアウト参加人数	200人	200人
笹川 地域従事者のべ人数	50人	58人
高花平小林町 地域従事者のべ人数	40人	81人

7. 成果

四郷：看板設置により、風致地区内の里山を散策しやすくなった。写真展の開催やパンフレットの配布により四季の美しさを周知でき、里山の散策を推奨した。

笹川：ストラックアウトやサイエンスショーを通じて、子どもたちは小学校区に関係なく楽しみながら交流を深めた。併せて運営に従事した保護者を始め、地域の方の交流にもなった。

高花平小林町：現状のまちの様子をドローン映像や写真で記録し、現状を検証できた。今後のまちづくりの検討資料を作成できた。

8. 今後の展開

四郷：地区の内外の人に里山を散策してもらい、その後も憩いの場や活動の場として訪れる人を増やし、まちの活性化につなげる。

笹川：小学校の統合を契機に、子どもたちの交流とともに地域の人との交流を促し、過去の小学校区を超えた笹川として一体的なまちづくりにつなげる。

高花平小林町：高花平では団地再生を目標に、小林町は開墾150周年を契機に、地域でまちづくりの気運を高め、推進していく。

平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名 地域資産の活用と減災のまちづくり

地区名 内部

1. 望まれる地域の姿

歴史や自然、暮らしなどの資産を活用した事業を地区が一丸となって実施し、観光資源としての活用も図ることで、地区が活性化する。また、地区住民が参画し作成したものを地区内の行事等で普及・定着させ、他地区に発信することで魅力あるまちとする。

2. 地域の現状

市内の内陸部に位置し、将来的に人口は増加傾向にある。高齢化率は市内では低い。
従来からの住宅地や新たな住宅開発が多数行われており、新旧住民が混在しコミュニティの希薄化が進んでいる。

3. 課題

内部地区まちづくり構想における本地区の将来像「次世代へ 歴史・自然・暮らしをつなぐまち 内部」の実現が望まれている。

四日市あすなろう鉄道を活用した内部地区の魅力の発信が望まれている。

また、地域防災力の強化のため、女性の参画が望まれている。

4. 実施内容

①歴史散策ウォーキング事業【新規】

平成27年度に地域活性化事業で作成した「ふるさと探訪マップ」を基本に、近畿日本鉄道との協働により塩浜駅から内部地区内を散策し内部駅に至るウォーキングを、平成31年3月2日に実施し、約500人の参加者を得た。四日市あすなろう鉄道にも協力参加として加わっていただいた。

マップ作製には地域型総合スポーツクラブ、“うつべ☆スター”の協力を得て作成し、誰もが分かりやすい具体的なものとした。

近鉄のホームページや冊子“きんてつハイキング”に掲載してもらい、塩浜駅では、駅員とボランティアによりマップの配付を行った。

また婦人会の協力の元、散策の途中で「うつべ自慢の郷土めし」の振る舞いを行うとともに、こにゅうどうくんと触れ合う機会を設けた。

内部の魅力を知っていただくことで、「四日市 魅力発見」に資することができた。

②地域防災力強化事業【新規】

内部地区自主防災協議会に委託し、女性目線での防災力の強化を目指した講演会や女性を対象とした講習を1年を通して実施した。多くの女性の参画があり、述べ約120名の参加者を得、防災活動への関心を高めることができた。

災害時における地域での見守り強化のため、防災訓練の際に取り組んでもらうよう、安全を示す「黄色いフェルト」の全戸配付を行った。

また、「避難準備・高齢者等避難開始」や「避難勧告」など、より分かりやすい表現で解説するとともに、内部地区に特化した防災情報を保存版として作成し、冷蔵庫などに張ってもらって常に活用できるよう、全世帯に配付した。

③地域交流事業【新規】

毎年11月に開催される内部地区の文化祭が50回目を迎える節目に、文化祭の実施主体である内部地区社会福祉協議会に委託し、地域の絆が強固となるような企画とした。

この文化祭をさらに盛り上げるべく、地域住民の誰もが鑑賞できるプロの乐团による演奏会を内部中学校で実施し、文化祭で演奏する内部中学校吹奏楽部のレベルアップの機会となったとともに、地元住民が作詞作曲した「はばたけ！ うつべ」を演奏し、地元の歌手が歌って参加者全員で盛り上がり、地域住民の連帯感を得た。

会場の準備や片づけには、自治会や内部っ子はげまし隊、学校の先生、吹奏楽部OGなどの協力を得、地区内が一体となる機会となった。

5. 経費

金額単位：円

事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳
歴史散策ウォーキング事業	委託料	248,480	コース作成費 郷土めし材料費、他
地域防災力強化事業	委託料	394,000	講師料 材料費、他
地域交流事業	委託料	286,291	出演料、他
合 計		928,771	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
ウォーキング事業参加スタッフ数	50	50
地域交流事業参加スタッフ数	50	50

7. 成果

地区内の各団体同士の連携が希薄化している中、地域活動費を有効に活用するため、まちづくり推進協議会を開く機会を多く設け、地区の一体感を醸成する効果があった。

各団体とセンターとの協働関係を深めるとともに、地区内の活性化が図られた。

8. 今後の展開

多くの団体に地域活動費を利用してもらい、多種多様な方面から地区の活性化が図れるような企画としたい。

また、各団体の主軸が高齢化を迎える中、次世代の人材育成を図る機会を設けるような講座等の企画を検討したい。

①歴史散策ウォーキング事業



②地域防災力強化事業



来たるべき災害に備えて!!!

「自分だけは大丈夫!」はあり得ない!

*** 災害が来る前に! 7つの準備**

① 家族で防災の話し合い!

② 非常持ち出し品は備えた?

③ 家の中は大丈夫?

④ 家の周りは大丈夫?

⑤ 防災訓練で学ぶ!

⑥ 四日市市発行の「防災手帳」の確認を!

⑦ 気象情報など情報を知る!

⑧ 避難する時の行動

⑨ ヘルメットや防災頭巾で頭を保護する

⑩ 不在家族にメモを残す

⑪ 子どもや高齢者や体の不自由な人を助け合う

⑫ 必ず地域の集合場所に徒歩で避難する

⑬ 避難行動について理解し行動する(詳しくは次面)

⑭ 避難場所

⑮ 避難場所

⑯ 避難場所

⑰ 避難場所

⑱ 避難場所

⑲ 避難場所

⑳ 避難場所

㉑ 避難場所

㉒ 避難場所

㉓ 避難場所

㉔ 避難場所

㉕ 避難場所

㉖ 避難場所

㉗ 避難場所

㉘ 避難場所

㉙ 避難場所

㉚ 避難場所

㉛ 避難場所

㉜ 避難場所

㉝ 避難場所

㉞ 避難場所

㉟ 避難場所

㊱ 避難場所

㊲ 避難場所

㊳ 避難場所

㊴ 避難場所

㊵ 避難場所

㊶ 避難場所

㊷ 避難場所

㊸ 避難場所

㊹ 避難場所

㊺ 避難場所

㊻ 避難場所

㊼ 避難場所

㊽ 避難場所

㊾ 避難場所

㊿ 避難場所

㊿ 避難場所

㊿ 避難場所

㊿ 避難場所

㊿ 避難場所

㊿ 避難場所

㊿ 避難場所

㊿ 避難場所

㊿ 避難場所

㊿ 避難場所

㊿ 避難場所

避難行動について (早め早めがポイントです)

●「避難情報」

弱

危険度

強

避難準備・高齢者等避難開始

避難勧告

避難指示(緊急)

避難方法

状況確認の上、自分に合った避難方法を取ってください

1 避難所への移動

2 安全な場所への移動

3 近隣の高い建物などへの移動

4 建物内の安全な場所への移動

内部地区災害対策本部の設置 (設置場所: 内部地区市民センター内)

次の場合、災害対策本部が設置可能と判断し、関係先に連絡する

① 地震の場合: 震度4以上

② 風水害の場合: 四日市市が災害対策本部を設置した時

内部地区の指定避難所...

四日市市が災害の状況により指定し、開設する

指定場所: ①内部地区市民センター

②内部地区小学校

③内部地区小学校

④内部地区小学校

※参考資料

・「防災と地域の防災」: 内部地区自治防災協議会 2019 年発行

・「避難行動について」のチラシ: 四日市市危機管理課発行

内部地区市民センター

内部地区自治防災協議会

H31.1.31

③地域交流事業



平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名 地域のきずなづくりプロジェクト

地区名 塩浜

1. 望まれる地域の姿

地域住民がさまざまな活動を通して連携と絆を深め、「豊かでさわやかな町しおはま」に住んでいることを誇りに生き活きと暮らす地域

2. 地域の現状

- ・人口が減少しているうえに、少子高齢化がますます進展している。
- ・地域住民によるまちづくり活動やイベント活動は活発に行われているものの、後継者不足である。

3. 課題

まちづくりに関わっている中心メンバーが高齢化してきており、後継者不足が課題となっている。今後もまちづくり活動を継続し、発展させていくためには、新たな人材や多様な人材の確保、育成が必要である。特に子育てが一段落した世代や定年を迎えたばかりの元気な高齢者等の地域の居場所、いきがいくりの場を提供し、まちづくりに参加・参画できる体制づくりや環境づくりが必要である

4. 実施内容

1 地域の人材発掘・居場所づくり事業【新規】

夏休みこども教室

夏休み期間中に地域住民及び企業の職員を講師として、各子ども教室を地区市民センター等で開催し、地域の人材を発掘する。

- ・8月7日：お茶席体験講座（いきいきサロン「ほっと」と連携）

参加者 12名 翌週の8月17日いきいきサロン「ほっと」に参加



2 塩浜の自然体験

塩浜キッズ農園【2年目】

平成29年度において、塩浜小学校の協力を得て校庭の一角の花壇を利用し、地域交流及び自然学習の一環としてキッズ農園を開墾し、全校児童180人を対象とした農業体験を行った。引き続きジャガイモの植付体験を行っており、今年度にジャガイモの収穫を行うとともに、さらにサツマイモや野菜の植付けを行い、収穫した作物による収穫祭及び作物の調理体験を行う。また、校庭の落ち葉や給食の野菜くずを活用した腐葉土作りも体験する。農業体験に当たっては、塩浜小学校キッズ農園会の会員を中心とした地域の農業経験者及び今年度実施する地域の人材発掘・居場所づくり事業の受講者等に耕作協力や栽培指導を仰ぎ、ヘルスメイト等の地域団体等の協力により塩浜キッズ農園を実施した。



3 地域の資源 活用・保全

① 動くタイムカプセル【2年目】

塩浜の歴史や文化、季節折々のイベント等における企画会議から当日のイベントまでを次世代に残すため、地域のボランティアの協力によりビデオを撮影・編集し、「動くタイムカプセル」として次世代に伝承する。当該事業は平成29年度「塩浜のビデオ制作」として始めたが、年度途中からの撮影ですべてを撮りきれなかったため、継続して実施した

② 多世代交流イベント【2年目】

11月10日の三浜文化会館全館開放イベント「こどもとおとなのアートまつり」において、地域活動室を活用してふれあいサロン「ほっと」を開催し、こども、子育て世代及び高齢者の三世代の交流の場とした。

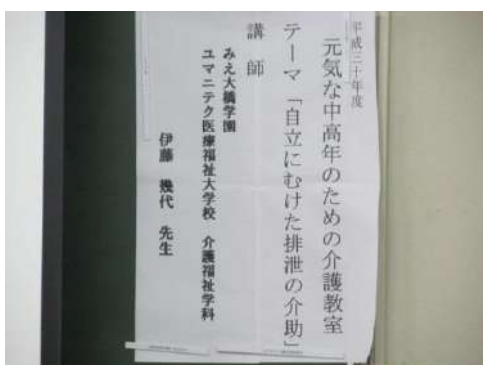


4 「まちかど保健室」【新規】

高齢者の介護予防及び閉じこもり防止を目的として、毎月第2金曜日にヘルスプラザ、第3水曜日に塩浜地区市民センターで、地域のボランティアによるいきいきサロン「ほっと」が開催され、年間延べ約4,000人が参加している。塩浜地区市民センターでの開催を活用し、社会福祉法人風薫会及びユマニテク医療福祉大学校と連携して介護予防等の講座を開催するとともに、保健師、ソーシャルワーカー、看護師等による暮らしの困りごとや健康相談等病院では聞けないこと、不安なことなどについて気軽に相談できる「まちかど保健室」を試行的に設置した。

・元気な中高年のための介護教室

- | | | |
|-----|--------|---------------|
| 第1回 | 9月21日 | 「お口と全身のかかわり」 |
| 第2回 | 11月16日 | 「生活リハビリについて」 |
| 第3回 | 2月15日 | 「自立に向けた排泄の介助」 |



・まちかど保健室（健康・介護・医療・生活に関する相談、血圧測定）

第1回 8月17日、10月19日、12月21日、1月18日 計4回



5 地域の防災力向上【2年目】

指定避難所への「かまどベンチ」設置

平成29年度において、地域住民の協力のもと塩浜中学校と連携して、普段はベンチとして使い、災害時には煮炊きに利用できる「かまどベンチ」を校庭内に設置した。本年度は引き続き、指定避難所である塩浜小学校の校庭内にも地域住民の協力のもと、塩浜小学校と連携して「かまどベンチ」を設置し、災害対応に向けた地域の組織づくりにつなげた。

実施日 平成30年12月18日、19日、20日

ボランティア等述べ20人が参加。3月2日塩浜児童館主催の「逃走中ゲーム」及び3月9日連合自治会等主催の鈴鹿川クリーン作戦等において、豚汁提供等を行う。



必要経費 別紙のとおり

5. 経費

金額単位：円

事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳
地域の人材発掘・居場所づくり	報償費	10,000	夏休みこども体験教室報償費
	消耗品費	21,168	こども体験教室消耗品
塩浜の自然体験			
塩浜キッズ農園	委託料	60,000	サツマイモの苗、種いも
地域の資源 活用・保全			
動くタイムカプセル	委託料	121,000	ビデオ撮影、映像編集
多世代交流イベント	委託料	192,000	綿かし、資機材使用料
まちかど保健室	委託料	74,000	講師報償費、ソーシャルワーカー
地域の防災力向上	委託料	167,000	かまどベンチ製作材料費
合 計		645,168	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
塩浜版市民大学受講生	30人	0人
多世代交流イベントボランティアスタッフ	60人	53人

7. 成果

地域活動やまちづくり活動に参加・参画しなかった人や人付き合いがなかった人が顔を突き合わせることで、地域や住民同士のきずなが深まるとともに、新たな人材の発掘により地域活動やまちづくり活動が活性化する。

8. 今後の展開

「塩浜版市民大学」の参加者によるボランティア意識の向上を図るとともに、後継者不足の「ほっと」や「防犯パトロール活動」等への参加を図る。

また、まちづくり活動や地域活動への参画を図るための環境づくりや仕組みづくりを検討する。

平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名 自然・文化を大切に～つながろう小山田～事業

地区名 小山田

1. 望まれる地域の姿

地区内における各町の人・モノ・情報の交流がより活発となり、地域がより活性化されることで、本市が掲げる「元気都市四日市づくり」を地域から実現する。

2. 地域の現状

地区の面積が広いうえに丘陵地域で起伏が激しいこともあり、町間の人的交流が希薄な状況がある。

3. 課題

- ・事業の実施を通じ、地域におけるまちづくり人材の発掘と育成やネットワーク化を図る。
- ・自然や文化をはじめとした地域資源の発掘・発信により、地域の魅力を地元の人々が再認識する。
- ・【新】H30年3月に策定された小山田地区まちづくり構想の実現に向けた取り組みとの連携事業

4. 実施内容

1. まちづくり構想の具体化へ向けた支援

- ①地区まちづくり構想の策定委員会を母体として地域の既存団体と調整・連携を図り、11月29日に「小山田地区まちづくり推進委員会」が設立された。立ち上がり直後の団体がスムーズに運営ができるよう、構想策定時に関わったコンサルタント業者に委託を行い運営のサポートを行った。
- ②【新規】若中年層をメインターゲットとして、まちづくり構想策定記念も含め、ミニコンサートを開催した。開催にあたり地域の若手住民、まちづくり団体のメンバー及びセンター職員が協同して制作した。幼児から高齢者まで幅広い層に会場いただき、好評を博した。
(3/21 山田町高齢者若者センター 参加者45人)
- ③【新規】小山田地区内を走るバス路線「和無田線」がこのままの利用状況が続けば、近い将来廃線となる可能性があるため、通学や通勤または買い物など地域における交通手段の在り方について、地域で模索を図るための取り組みを行った。都市計画課職員の出前講座やまちづくり推進委員会設立総会時に生活バス四日市の代表者西脇氏に講演をしてもらうとともに、市のマイクロバスを使い、疑似的に作成したバス路線の試走を行った。(3/19開催、参加者全15人)

2. MAPを活用した事業

- ①小山田地区を再認識することをテーマに「つながるマップ」にあるポイント等を中心に小山田地区内を散策するイベントの第2弾を開催した。今年度は、小山田町で開催し、地元の協力を得てマップにあるポイントを地元の人に解説していただいた。(3/9開催、参加者13人)

5. 経費

金額単位：円

事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳
コンサルタント業務	委託料	432,000	4か月間
記念講演会	報償費	6,000	1回、1名
地域イベント活性化(親子コンサート)	役務費	99,792	出演者2人、制作スタッフ4人
〃	報償費	10,000	地元運営スタッフのべ約10人
需用費等	消耗品費等	14,201	装飾用色紙、著作権使用料
バス運行経費	委託料	11,482	市マイクロバス 運転手1人5hr
ウォーキング開催経費	報償費	20,000	地元協力団体
需用費	印刷製本費	40,932	カレンダー300枚
消耗品／保険代	消耗品費	22,504	
備品購入費	備品購入費	58,104	ハンドマイク 1台
合 計		715,015	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
まちづくり団体の組織化	1団体	1 団体
まちづくり活動への新規参画者	5 人	5 人

7. 成果

本年度の最大の目標であるまちづくり推進体制の創設について、台風により設立総会が2か月程延期となったが、年度をまたがずに移行することができた。

地域の機運を大きく損なうことなくまちづくりの駒を次へと進められたことは大きな成果だと考えている。

また、まだまだ歩き始めたばかりのまちづくり団体ではあるが、地域におけるまちづくりへの関心は、徐々にではありながらも高まって来ていると感じている。

8. 今後の展開

推進体制ができたばかりということもあり、今年度は試行事業として位置づけて実施した。

しかしながら、実際に事業が進むにつれ、刺激を受けた地元の委員からは、小山田地区内には、さまざまな分野で活躍する人材がおり、それらをデータベース化するべきである。また、やる気のある人から構想の主旨に合致したアイデアを地区から広く公募してみてもどうか、さらには、まちづくり委員会がそれらのアイデアと人材を繋ぐ体制を構築すべきだなど、これまでとは違った角度からさまざまなアイデアが出るようになってきた。

今後センターとしては、これら住民のニーズの把握に努めるとともに委員会が小山田地区のまちづくりを着実に推進していくことができるよう、人材の発掘や育成、資金の面で当館長権限予算を駆使しながらサポートしたい。



(特非)生活バス四日市 代表者西脇氏の講演会



地域の人と制作した手作りコンサート



自主運行バス疑似コースの試走



＜散策イベント＞地域の方からの解説

平成30年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	地域資源を活用した魅力あるまちづくり、ひとづくり推進事業	地区名	川島
-----	------------------------------	-----	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
豊かな自然、歴史、人材などの地域資源を守り生かしつつ、これらの資源も活用しながら住民同士が交流を深め、互いに支え合い、安心して住み続けられる地域	・鹿化川沿いの桜並木やシデコブシ自生地など、豊かな自然環境が残っている。 ・農業従事者の高齢化に伴い、農地(竹林を含む。)の耕作放棄が増加している。 ・旧来からの集落や昭和40年代に造成された団地等では、急速に高齢化が進んでいる。 ・地域住民によるまちづくり活動は活発に行われているが、後継者不足に悩んでいる。
3. 課題	
・鹿化川の千本桜は、市内でも有数の桜の名所であり、地区の重要な観光資源になっている。しかしながら、これまで桜の維持管理をしていた「鹿化川の清流と千本桜を守る会」が平成27年に解散しており、その後は十分に手入れされておらず、徐々に木の衰えが目立ってきている。 ・高齢化が進む中、平成28年度に「地域での支え合い組織」を立ち上げたところであるが、年々一人暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯が増えてきていることから、地域で支え合える体制を更に充実させ、誰もが安心して暮らせる環境を整備していくことが必要である。 ・高齢化は、地区の農業にも大きな影響を及ぼしており、地区内において耕作放棄地が増加してきていることから、優良な農地を維持し、継承していける人材を育成していくことが必要である。 ・まちづくりに関わっている中心メンバーが高齢化してきており、担い手不足が課題となっている。そうした中、今後もまちづくりの活動を継続、発展させていくためにも、若い世代の住民などを巻き込み、多様な人材が意思決定の場に参画できる体制づくりや環境づくりを進めていくことが必要である。	
4. 実施内容	
1 桜並木などの保全活動への支援 保全活動の対象エリアについて、昨年度から実施している大門山周辺のほか、鹿化川沿いまで拡大させ、ボランティア、学校、地域団体などとの協働により保全作業を行った。 (1) 鹿化川千本桜の保全【新規】 樹木医による樹木健康診断、診断結果を踏まえた講習会、川島小学校4年生、地域住民及び三滝中学校ボランティアによる保全作業などを実施した。(講義：2/3 参加者30人、保全作業：2/9 参加者209人) (2) 大門山周辺の里山整備【2年目】 地区イベント(里山フェスタ)にあわせ、三滝中学校生や四日市大学生を含めたボランティアとの協働により、大門山周辺の繁茂した竹林の伐採や散策路の整備などの里山保全作業を実施した。(11/11～11/24 延べ参加者47人) 2 「農と食」体験イベントの開催【新規】 ボランティアや地元農家の協力を得ながら、小学生及び地域住民を対象とした「川島あぐりチャレンジ」を開催した。 ・川島小学校近くの休耕田を活用し、川島小学校5年生とその保護者を対象とした農作業実習(田植え・稲刈り体験)を一般参加者も募って実施した。 (田植え：5/19 参加者180人、稲刈り：9/26 参加者183人) ・農業体験の一環で、「かかし作り講座」を開催した。また、農作業実習に参加した小学生だけでなく広く出展募集も行い、夏祭りで「かかしコンクール」を開催した。 (講座：6/15・7/1 参加者155人(小学生を含む)、コンクール：8/4 投票者数274人)	

- ・ 防災協議会と連携し、川島小学校5年生を対象に収穫したお米を使った土鍋炊飯（防災学習）を実施した。（10/18 参加者 174 人）

3 人材育成のための講座などの開催

(1) まちづくり講座【新規】

今年度新たに立ち上げた「まちづくり青年協議会」のメンバーを対象に、まちづくりのための勉強会を開催した。（4/15 参加者 10 人）

(2) ボランティアスキルアップ講座【2年目】

「ちょボラかわしま」と連携し、ボランティアのための講座（講義及び付き添い実習を兼ねたお買い物ツアー）を開催した。（講義：11/29 参加者 26 人、実習：12/4 参加者 22 人）

5. 経費

金額単位：円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
桜並木などの保全活動への支援	需用費	55,189	里山整備用資材他
	役務費	2,000	傷害保険料
	委託料	486,000	毎木調査、講義、作業指導
	委託料	291,600	高所剪定作業
	使用料及び賃借料	35,540	仮設トイレ レンタル料
「農と食」体験イベントの開催	委託料	190,000	農作業体験、かかしコンクール、防災学習(土鍋炊飯)
人材育成のための講座などの開催	報償費	8,000	講師報償費
	需用費	1,472	チラシ用紙
	役務費	3,000	傷害保険料
	使用料及び賃借料	77,760	バス借り上げ料
合 計		1,150,561	

※ 詳細別紙

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
保全活動及び体験イベント延べ協力者数	100 人	172 人
まちづくり講座、スキルアップ講座等延べ受講者数	100 人	88 人

7. 成果

- ・ 地域の魅力を再認識してもらうことで、地域への関心や愛着心を向上させるとともに、住民同士の交流を通じて、住民間のつながりや絆を強めてもらうことができた。
- ・ 若い世代ならではの新しい視点や発想を今後のまちづくりに取り入れていけるよう、子育て世代をメンバーとする「まちづくり青年協議会」を新たに立ち上げた。
- ・ 地域内での支え合いのための人づくり・組織づくりを支援することで、安心して生活し住み続けていけるまちとして、自分たちの地域を自分たちで守っていくという意識の醸成につながった。

8. 今後の展開

- ・ 今後も地域の魅力について情報発信していくとともに、引き続き地域資源を活用した事業を実施しながら、一層の世代間交流を図っていく。また、保全活動については、参加者を増やしながら地域の中で継続していける体制づくりを進めるとともに、これらの取組みを通じて地域活動への参加促進も図っていく。
- ・ 今後のまちづくり活動を支える新たな担い手の発掘・育成のための環境づくりや仕組みづくりについて、引き続き支援していく。

川島あぐりチャレンジ（田植え）



川島あぐりチャレンジ（稲刈り）



かかしコンクール



里山保全活動（竹林伐採）



ボランティア入門講座（講義）



ボランティア入門講座（付き添い体験）



桜守ボランティア講座（講義）



桜守ボランティア講座（鹿化川千本桜の保全）



平成 30 年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名 地域団体活動の担い手育成事業

地区名 神前

1. 望まれる地域の姿

住民が地域に愛着を感じ、地域活動や地域社会づくりに多様な人材が参画できるようになること。

2. 地域の現状

地域行事等が非常に盛んであるが、各団体を担う後継者や防災への女性の参画が不足している。

3. 課題

- (1) 地域防災において、現状では主に男性が活躍しているが、男女共同参画の視点を取り入れるためにも、地域防災に積極的に参画する女性の人材発掘や育成が課題である。
- (2) 各団体ともに後継者が不足しており、多様な世代に地域への愛着をさらに深めてもらうことで、地域づくりの後継者となる人材を育成していくことが課題である。

4. 実施内容

1 地域防災男女共同参画推進基盤整備事業【2年目】

大規模災害時に地域の安全・安心を守るためには、女性の視点が不可欠である。平成 29 年度は、まずは地域の女性が防災・減災に関心を持っていただくことを目的として、研修会を 2 回開催した。

平成 30 年度も引き続き女性に防災・減災についての関心や知識をさらに深めていただくために、11 月 30 日（金）に防災研修会を開催し、災害時に役立つビニール袋調理体験（パッキング）と防災講演会及び防災備蓄品の展示を実施した（参加者 45 名）。

地域の事業と協働し、これまでの研修参加者により、防災・減災について考える女性グループを立ち上げた。（3 月 8 日に設立総会開催）

2 神前地区魅力 PR 事業【新規】

(1) 神前郷土資料館冊子作成

神前郷土資料館は、地域の昔の人の生活を知ることができる資料が多数展示されている地域の貴重な資源であるが、展示の内容等詳細が住民の方に十分に知られているとはいえない現状である。

これまで地域の歴史を調査研究し、出版を行ってきた「かんざき風物詩編集委員会」を擁する神前地区社会福祉協議会に委託し、編集会議を 6 回（9 月 1 日、9 月 26 日、10 月 20 日、11 月 19 日、12 月 5 日、1 月 9 日）実施し、展示内容をわかりやすく説明した冊子を 500 部作成した。また、冊子の PR チラシを作成し、全世帯に配布するとともに、3 月 1 日から地域の小中学校等を含む関係機関及び希望者に配布した。今後も引き続き希望者に配布し、地域への関心や愛着を高めることに活用いただく。

(2) 自主運行バス PR グッズ作成

自主運行バス神前高角線は、これまで利用者が少なく、神前地区まちづくり推進委員会と担当部局が協議を行い、通勤や通学にも利用していただきやすいよう朝夕を充実するなど、平成 30 年 10 月 1 日から運行ダイヤの見直しを行った。

ダイヤの見直しを機会に、地域の重要な交通手段である神前高角線をさらに地域住民の方に広く利用していただくための PR グッズを作成した。そのうち、啓発チラシとクリアファイルについては各 3,000 枚作成し、全世帯に配布した。また、マグネット及びシールについては各 500 枚作成し、今後の地区行事等で配布を行い、神前高角線の利用促進を図っていく。

5. 経費

金額単位：円

事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳
地域防災男女共同参画 基盤整備事業	委託料等	299,836	神前地区連合自治会委託料 シルバー人材センター委託料 消耗品費
神前地区魅力 PR 事業	委託料等	576,434	神前地区社会福祉協議会委託料 印刷製本費
	合 計	876,270	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
地域防災について考える女性グループの立ち上げ	参加者 10 名以上	10 名
神前郷土資料館 PR 冊子の希望者への配布数	50 部以上	250 部（関係機関含む。）

7. 成果

- ・昨年度からの取組みにより、男女共同参画の視点から地域防災を見直す取り組みが神前地区全域に広がり、防災について考える女性グループを立ち上げることができた。
- ・地域の貴重な資源である神前郷土資料館の PR 冊子を発行し、地区内外に広報することができた。
- ・多くの方に利用していただくために運行ダイヤの見直しを行った自主運行バス神前高角線の PR について、全世帯に行うことができた。

8. 今後の展開

- ・神前地区自主防災協議会についても、充実に向けて見直しを進めているところであり、今年度立ち上げた防災について考える女性グループがその中で大きな役割を果たせるよう、今後もサポートしていきたい。
- ・神前郷土資料館 PR 冊子の発行及び地区内外への広報により、地域住民はもとより、地区外の方にも興味を持っていただき、神前郷土資料館の見学者を増やし、神前地区の魅力を地区内外に発信する一助としたい。
- ・高齢化のなかで、地域にとって貴重な公共交通機関である自主運行バス神前高角線の存続に向けて利用者増をはかるため、さらなる PR を行っていきたい。

1. 地域防災男女共同参画基盤整備事業
神前地区女性のための防災・減災セミナー（11/30）
第1部 パッククッキング（講師：岡部梨恵子さん）



第2部 防災講演会（講師：岡部梨恵子さん）



第3部 防災展示（講師：中村恭子さん）



2. 神前地区魅力 PR 事業

(1) 神前郷土資料館冊子作成 (左：チラシ、右：冊子)



(2) 自主運行バス PR グッズ作成

(左：チラシ、右：フリーファイル)



(上：シール、下：マグネット)



平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名 心のかよう緑豊かなまち桜へ

地区名 桜

1. 望まれる地域の姿

桜地区では智積養水や一生吹山、矢合川で整備・保存活動が行われており、今後も自然を活かした地域住民の憩いの場、ふれあいの場として利用することが望まれている。また、地域内でも自主活動による環境整備も必要である。

2. 地域の現状

智積養水や一生吹山、矢合川では、自然環境の保存活動が行われているが、参加者の減少がみられる。また、各地区において活動を行う団体についても、高齢化などにより活発さが薄れてきている。

3. 課題

住民の方が智積養水や一生吹山、矢合川において自然環境の整備・保存活動やイベントを行っても、変化が乏しく、参加者が固定化傾向にある。また、桜地区では地区内の有志により結成された「智積自然の会」や「グリーン隊」が桜地区内の環境整備を進め、地区に貢献しているが、人材や資材等が不足しており、その活動への支援が望まれている。

最近は桜地区の多くの山で竹が繁殖し、竹害も発生しており、また、山の樹木管理の問題も発生してきている

4. 実施内容

1 環境整備事業

桜花台グリーン隊は、7年程前から地域の環境保全活動を行っており、矢合川から繋がる散策路の整備も行っていた。本年度は、桜中学校への通学路途中にある街路樹の枝払いや、桜地区で利用されているグラウンド周辺の高木の枝払いや竹の伐採、除草作業などを年6回、参加者9名で行っていた。これらは、桜地区にとって大変有意義な活動であり、当団体が今後も活動を継続出来るよう期待されているので、支援を行った。【2年目】

また、桜地区のまちづくり構想では、智積養水や一生吹山は、自然環境の保全や憩いの空間としての利用が求められている。桜地区を代表する名所である智積養水は、国の環境省に名水百選として登録されており、平成4年に市の事業で公園や休憩所が整備されたが、それ以後、維持修繕が行われず、設置された看板も老朽化し、見にくくなっているのみならず、記述内容に誤りがある状態であったため、今回、桜地区の顔である智積養水の看板を刷新し、来訪者への案内の充実を図った。現地を訪れた方には、解り易くなったと好評である。【新規】

一方、一生吹山では樹木も高木化し、進入道路や頂上公園への影響が多くの箇所で見られたため、樹木の伐採などを行ってはいたが、伐採した樹木の処理費用が捻出できず、山積みとなって保管されていた。また、近鉄湯の山線に隣接する桜並木は、植樹後45年以上が経過し、根がはりすぎて水路に影響を及ぼしたり、近鉄線の架線方向に枝が伸びて、鉄道事業者からその対応を求められ、管理者である自治会はその対応に苦慮し、地元でも撤去の声が上がっていた。そこで今回、導入した薪割機を利用し、10月27日に地元自治会のボランティア15名が参加し、桜の木の撤去作業を行った。撤去した木は60cm程度に切断してから薪割機を利用したが、量が多く、その後3名の方が、4回ほど薪割を行い、処理を完了することができた。薪は、12月24日に桜地区市民センターで行われた「新鮮朝市」で一部を販売し、地元の収益としたり、ボランティアで行う餅つき大会で利用し、桜地区内での資源の有効利用を進めた。また、これを聞いた他の自治会でも、懸案事項となっている樹木の除去を行いたい旨の相談があった。このような活動を通じて、少しずつではあるが、「地域のやる気」が醸成されていることを感じる。【新規】

さらに、桜地区ではめだか池周辺でイベントが開催され、子供を含めた多くの方(約500名程度)が参加されるが、会場へ向かう通路が狭く、すぐ横が斜面や水路となっており、転落や転倒の危険があった。それを防止するため、今回通路の脇に転落防止用のガイド板を設置し、誤って転落や転倒が起きないように対処した。めだか池周辺でのイベント実施は、智積自然の会がボランティアで行っていたおり、今回の整備も、2月10日に7名、2月24日に6名で行っていた。これからは、参加者も安全にイベントを楽しめるようになった。【新規】

2 憩いの場づくり事業【3年目】

桜地区でも、最近は山が荒れ、竹や雑木が生い茂っているところが多く見受けられるようになってきている。そこで、竹の有効利用や竹害対策の一つとしての働きかけのほか、地域住民の憩いの場を作るため、竹灯りの展示を行った、竹灯りの製作や展示については、ボランティアを募集(35名が応募)し、他地区や桜地区の方と力を合わせて竹灯りを製作し、展示した。また当日(7月21日)は、桜地区連合自治会、桜地区民生委員児童委員協議会など、桜地区の各種団体の力を借りて、まちぐるみのイベント実施となるよう配慮した。その結果、約500人の方が参加され、多くの人で賑わった。参加者からは、今後も続けてほしいとたくさんの要望があったことを受け、桜地区社会づくり協議会と竹灯りボランティアの方々が、地域の祭りとして竹灯りを続けていきたいとの希望があり、継続する方法について検討を行っている。

また、竹灯りは他地区でも興味を持っておられる方もみえ、四日市大学エネルギー環境教育研究会主催のバンブーサミット(12月2日開催)でも竹灯りの展示を依頼され、実施した。他にも楠地区の有志や県地区、河原田地区から事業を実施してみたいとの問い合わせがあり、製作方法や展示機材の説明などの協力を行った。楠地区では、ホテルの郷コンサート(5月26日)に合わせて、ホテルの小径として、有志の方と協力して100本の竹灯りを展示した。県地区では、地域のみなさんが講座で製作した竹灯りを地域行事のお月見フェスタ(10月26日、100名参加)に合わせて展示を行い、河原田地区では、小学生や保育園児と地域のみなさんの協力により、12月21日に竹灯り点灯式が開催された。どの事業も地域のみなさんに好評で、来年度も実施が望まれているようである。

5. 経費

金額単位：円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
1 環境整備事業			
竹林等整備事業	消耗品	139,974	高枝切りのこぎり等
	燃料費	16,207	ガソリン
智積養水看板整備事業	委託料	139,320	看板製作1枚
一生吹山周辺整備事業	消耗品	189,404	鋼材、木材等
	備品購入費	237,600	エンジン式 薪割機1台
	燃料費	7,788	ガソリン
2 憩いの場づくり事業			
竹灯り事業	消耗品	145,703	LED 電球、ソケット、電線等
合 計		875,996	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
イベントや活動の参加者	500人	500名
ボランティア参加者	50名	90名

7. 成果

一生吹山周辺や地域の環境整備、竹林の整備、竹灯りイベントなどの実施により、住民同士のふれあいの機会が増え、地域のコミュニケーションが深まった。

また、地域活動に参加していただくことにより、地域の結束と新たな人材が発掘され、より活性化されたまちとなった。

8. 今後の展開

智積養水、一生吹山、矢合川などでの整備保存活動のみならず、各地区で自主的に環境整備が継続されるようなまちを目指す。

また、地域にPRし、活動やイベントへの参加者を増やし、活力のあるまちにしていく。

1 環境整備事業

桜花台グリーン隊



草刈活動



智積養水看板修繕(完成)



近鉄線路脇へ延びる枝 着手前



樹木管理完了



餅つき大会



薪割機作業



薪割状況



めだかの池転落防止板設置





2 憩いの場づくり事業

さくら竹灯り



地域のボランティアによる協力



民生委員児童委員のみなさん



○他地区との連携事業

楠地区 ホタルの郷コンサート竹灯り展示 県地区 お月見フェスタ



河原田地区 小学生の竹灯りづくり・竹灯り点灯式



平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名	もっと住み続けたくなるまちづくり	地区名	三重
-----	------------------	-----	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
住民が自らの暮らす地域に愛着を感じ、安心して住み続けられるまちづくりに連帯して取り組んでいる。	高齢化が進む一方、子供たちを含めた若い世代と高齢者が交流する場が減少し、高齢者が住み続けていく上での課題も顕在化してきている。

3. 課 題
住民の高齢化により地域行事の多くが取りやめとなっていく中、知識や経験を有する高齢者世代と若い世代が交流する場が少なくなり、住民間の連帯感が弱まってきている。また、三重団地など高齢者世帯が多く暮らす地域を中心に、高齢者が住み続けるための環境整備が急務となっている。

4. 実施内容
(1)郷土資料館活性化事業【3年目】(498,960 円) ・認知度向上イベントの開催(12月9日開催 参加者 1,300人) 現時点において、三重地区内住民でも郷土資料館の存在を知らない方が散見される。イベントを開催することによって、その認知度の向上を図った。 (2)まちづくり啓発事業【新規】(351,000 円) ・児童及び保護者を対象とした講演会の開催(9月10日開催 参加者 498人) 次代を担う小学生がまちづくりに関心を持てるよう、防災・減災対策をテーマとした講演会を開催した。併せて、保護者の視点を取り入れた避難所運営訓練を開催した。 (3)三重西3世代交流事業【2年目】(349,920 円) ・食の大切さ教室の開催(8月25日ほか7回開催 参加者延べ 254人) 好き嫌いなく何でも食べる子供を育てるなど食育を考える場として「食の大切さ教室」を計8回開催し、食を通じた3世代交流を図った。

5. 経費			
	支出内訳	支出金額	支出先
委託料	紙袋ランタン用資材、ポスター等印刷	498,960	三重郷土資料館保存会
	講師報償費、啓発用消耗品等	351,000	三重北小学校区連合自治会
	交流事業用材料、消耗品、講師料、会場使用料	349,920	三重西小学校区まちづくり構想委員会
	合 計	1,199,880	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
郷土資料館イベント運営参加者数	25 人	27 人
食の大切さ教室運営参加者数	80 人	94 人

7. 成果

今回実施したいずれの事業も、当日の参加者はもちろんのこと、スタッフも地区住民のあらゆる年代の方に数多く参加いただいた。このことから「世代を超えた交流の場」を作り出すことができ、住民間の連帯感を強める一助となった。

8. 今後の展開

住民活動が活発な小学校区から、他の小学校区が学んでいただけるような場の創出に向けて働きかけを行っていきたい。もって、三重地区全体として、まちづくりに対する住民の関心を高めていきたい。



郷土資料館活性化事業



まちづくり啓発事業



三重西3世代交流事業

平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名	あがたの未来を担う人材育成と魅力アップ による地域活性化事業	地区名	県
-----	-----------------------------------	-----	---

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
地域活動に皆が楽しく参加し、未来を担う人材が育ち、将来に渡って魅力がアップしていく街	・人口が逡減し、高齢化が進行している。 ・先駆的なまちづくりの取組みが行われたが、地域を担う人材の育成と取り組みの継承が課題。
3. 課 題	
まちづくりの担い手が、人口流出・高齢化により減少⇒未来を担う人材育成と地域の魅力アップ	
4. 実施内容	
1 地域の未来を担う人材育成 (1) 里山グリーンパーク岡山を担う人材の育成 四日市大学教授の助言による育成事業 【新規】 ⇒実施せず。 (2) 地域防災を担う女性人材の育成と女性防災の普及 【新規】 (時期：6/23、3/12、於：自治会、在宅介護サービスセンター、参加者：150人) 地域の女性防災グループの女性防災の取り組みを支援し、権限予算でグループの活動黎明期からその後の自律的な活動へ向けての取り組みを支援した。 それにより、地域防災を担う女性人材を育成すると共に、地域での女性防災の普及を図った。 (3) 小学生等の防災意識育成を起点に家族の防災意識を向上「あがたっこ防災」 【2年目】 災害時実践で役立つ講習会開催 (時期：7/31、11/20、2/12、於：小学校、保育園、参加者：133人) 地域の女性防災グループの子ども防災の取り組みを支援し、権限予算でグループの活動黎明期からその後の自律的な活動へ向けての取り組みを支援した。 講座では、災害時の身の守り方や災害発生後の対応方法等を実践に近い形で学べるようにし、保育園～小学校中高学年の早い時期から防災意識を育んだ。 また、防災意識を持った子どもの育成を起点に、家族の防災意識向上も図った。 (4) 自警団人材育成による地区防災連携の推進 【新規】 可搬式ポンプ連結送水可能な人材育成と連結訓練による連携推進への協力を行った。 (時期：6/10、於：海蔵川周辺、参加者：80人) 権限予算により、各自警団が所有する可搬式ポンプについて、未経験の連結送水の実践訓練を支援し、ノウハウと運用可能な人材を育成すると共に、地域防災の実のある連携に繋げた。 2 地域の魅力アップで活性化 (1) 地域情報の発信・交流の環境づくり 【新規】 権限予算でスマートフォン・タブレット講座で人材育成を行ってきたが、持続的な地域情報の発信・交流の環境づくりを、講座で育成した修了者を中心に実践していく。 ⇒人材が十分に育っていないことから実施を見送り、生涯学習事業で講座を引き継ぎ人材育成を図った。 (2) 里山グリーンパーク岡山 お月見フェスタ 【新規】 (時期：9/24、10/2、10/26、於：参加者：140人) 県地区特産の市民緑地グリーンパーク岡山の竹を活かした竹灯籠づくりや竹灯り行事等を通じて、地元特産の竹や産地への関心・愛着の醸成を図った。	

(3) 地域の散策・活動スポットの魅力 PR 整備事業 【2 年目】

(時期： 8～3 月、於：現地)

里山グリーンパーク岡山、竹谷川の魅力等の看板・銘板整備等を進め、地域内外に魅力を PR し活性化を図った。

(4) 地域の歴史、伝承の研究学習・環境整備 【新規】 ⇒実施せず。

5. 経費

金額単位：円

事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳
里山グリーンパーク岡山を担う人材の育成	報償費、消耗品費	0	—
地域防災を担う女性人材の育成と女性防災の普及	報償費、消耗品費、印刷製本費	89,512	講師謝礼、啓発用非常食、啓発用クリアファイル
小学生等の防災意識育成を起点に家族の防災意識を向上「あがたっこ防災」	報償費、消耗品費、印刷製本費	153,387	講師謝礼、啓発用手回しライト、救出訓練用バール、防災食実演用食材、啓発用クリアファイル等
自警団人材育成による地区防災連携の推進	消耗品費	1,004	参加者飲み物
地域情報の発信・交流の環境づくり	報償費	0	—
里山グリーンパーク岡山 お月見フェスタ	報償費、消耗品費	302,547	講師謝礼、ドリル、ドリル刃、電球等
地域の散策・活動スポットの魅力 PR 整備事業	委託料、消耗品費	640,267	里山銘板及び案内看板の作成・設置、竹谷川の蛍と桜啓発看板作製・設置、インク代等
地域の歴史、伝承の研究学習・環境整備	報償費、委託料	0	—
合 計		1,183,117	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
地域の未来を担う人材育成及び魅力アップ事業の運営参加者数	525 人+1 割増の実績	503 人

7. 成果

地域を担う人材育成と魅力アップ事業により、地域自らが課題を意識して解決への取り組みを行い、将来に渡って地域が活性化していく下地づくりができた。

8. 今後の展開

地域の中から未来の担い手が継続的に生まれていくような仕組みづくりを続けていく。

平成30年度地域活動費「あがたの未来を担う人材育成と魅力アップによる地域活性化事業」

県地区市民センター

1 地域の未来を担う人材育成

小学生等の防災意識育成を起点に家族の防災意識を向上「あがたっこ防災」

小学校編

(等身大ぬいぐるみを使った救出訓練
子どもでも出来る。)



保育園編

(白布を煙に見立てた脱出訓練
自分の命は、自分で守る。)



自警団人材育成による地区防災連携の推進

(可搬式ポンプの相互連結送水訓練)



2 地域の魅力アップで活性化

2018 あがた お月見フェスタ（竹灯り）

（竹灯籠づくり）



（フェスタ当日）



地域の散策・活動スポットの魅力 PR 整備事業

里山グリーンパーク岡山の案内看板整備



竹谷川の蛍と桜の魅力啓発看板の整備

（大池中学校美術部作品、蛍の舞う竹谷川の魅力啓発看板）



平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名 八郷地区 安全・安心・ふれあい創造事業

地区名 八郷

1. 望まれる地域の姿

『八郷地区まちづくり構想（H25.3）』で掲げるまちづくりの目標：『ひと・自然・ふれあい』～世代を越えた絆のまち八郷～を実現するため、
 1）ふれあいのある安心して暮らせるまち
 2）自然・歴史環境と共存するまち
 3）安全に暮らせるまち
 といった3つの方針に基づき、「八郷はひとつ」の気持ちのもと、地区住民が主体となってまちづくりを推進していく精神的風土が定着すること。

2. 地域の現状

- ・少子高齢化が進む中、世代間や地域間のつながりが次第に希薄化してきている。
- ・地域社会づくりの担い手が高齢化してきており、後継者の発掘、育成に苦慮している。
- ・一方で、地域住民が各種イベントの企画、運営やHPによる情報発信に積極的に関与し、地域活性化に向けたさまざまな取り組みが精力的に展開されており、地域力向上へのポテンシャルは非常に高いものがある。

3. 課題

- ① 世代を越えて交流し、ふれあいのある安心して暮らせるまちづくりを実現すること
- ② 自然・歴史・文化等の地域資源を再認識し、活用することにより郷土愛を醸成すること
- ③ 地域住民の強い絆に基づく「共助」により、災害への備えができるまちづくりを推進すること

4. 実施内容

1. 八郷地区コミュニティバス等導入検討事業【新規】

地区住民や地元関係者が参画して運営する持続可能なコミュニティバス等の導入について、八郷地区まちづくり構想実行委員会とともに次の内容で研究、検討を実施した。

- ① 8/7 **講演会** 演題：『地域住民と地元企業と行政との協働で走らせる「生活バス四日市」』
講師：NPO 法人生活バス四日市 理事長 西脇 良孝 氏
- ② 8/8 **バス乗車体験** 西脇理事長同乗のもと、八郷地区まちづくり構想実行委員会メンバーによる「生活バス」乗車体験を実施。以降、別日程において、八郷地区民生委員児童委員協議会、ハピネスやさ在宅介護支援センター、八郷まちづくり委員会など各関係団体にも独自で乗車体験をしていただき、それぞれ感想・意見等をレポートしてもらった。
- ③ 9/10 **バスルート案の作成及び意見交換** 住民ニーズを反映したバスルート構想案について、八郷地区まちづくり構想実行委員会委員各位によるプレゼン及び意見交換を実施。
- ④ 12/19～1/8 **アンケート調査の実施** コミュニティバス導入検討において地区住民の意向等について調査するため、無作為抽出された八郷地区内1,016世帯を対象にアンケートを実施。[調査票回収数915件（うち有効回収数913件、有効回収率89.9%）]
- ⑤ 3/12 **検討バスルート走行実験** 八郷地区まちづくり構想実行委員会において検討してきたルート案に基づき、貸切りバス（29人乗り以下小型バス）による走行実験を行う。この走行実験には、当検討事業に協力いただいた上記関係団体各位に参加を依頼。

2. 散策・サイクリングマップに基づく標示看板設置による地域資源の魅力再発見事業【継続：3年目】

平成26年度に作成した『八郷地区 散策・サイクリングマップ』で推奨する周遊コース上に3カ年（平成28年度～30年度）かけて標示看板を設置するもので、今年度、残り20箇所（現場精査により予定の23箇所から変更）を整備完了。

3. 男女共同参画の視点を取り入れた地域自主防災力向上事業【継続：2年目】

平成29年度に実施した防災講座のレベルアップ講座として位置付け、昨年度からの受講者を主な対象として、より実践的な内容により以下のワークショップを実施した。

- ① 11/17 『防災女子会』と題し、四日市市北消防署北部分署を会場に以下の内容で実施
 - 1）北消防署北部分署の紹介及び施設見学（講師及び進行：北部分署長）
 - 2）ワークショップ『あなたの非常用持ち出し袋、中身拝見！』

（進行：地区市民センター、四日市市自治会連合会事務局）

※地域活動費を活用し、特に女性にとって必要と考えられる非常用持ち出し品を参考品として数点購入した（各2セットずつ購入）。

②12/15～12/16 『小学校施設を使った「避難所レイアウトづくり」』

- 1) 講師：浅野 幸子 氏（減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表、早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員）
- 2) 協力：四日市市自治会連合会事務局（「避難所案内プレート」の作成）
- 3) 内容：指定避難所である八郷小学校及び八郷西小学校を会場にして、講師指導のもと以下の内容で「避難所レイアウトづくり」に関するワークショップを開催した。
 - ▶主な受講対象者は、両小学校区に在住する女性。
 - ▶小学校の校舎見取図を活用して、実際に指定避難所が開設されたことを想定し、避難者の状況に応じた避難スペースの目的や用途について女性の視点を反映させた「避難所レイアウト図」を作成。
 - ▶作成したレイアウト図に基づき、「避難所案内プレート」を掲示する訓練を実施。
 - ▶このワークショップは、学校関係者との連携が重要であることから、両校いずれも校長、教頭にも参加いただいた。

5. 経費

金額単位：円

事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳
八郷地区コミュニティバス等導入検討事業	報償費	11,000	講師報償費（講演会：6,000、及びバス乗車体験同乗時解説分：5,000）
	委託料	401,436	地区住民意向等調査：294,840 運行路線検討走行実験：106,596
地域資源の魅力再発見事業	委託料	496,800	周遊路標示看板設置：496,800
地域自主防災力向上事業	報償費	130,000	ワークショップに係る講師報償費：130,000
	需用費	16,444	ワークショップで使用する教材（基本となる非常用持ち出し品）：16,444
合 計		1,055,680	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
（仮称）八郷地区コミュニティバス等導入検討プロジェクトチーム	組織化	組織化に至らず
H29年度防災・減災講座女性受講者22名の内、今年度講座皆出席者数	18名以上	10名

7. 成果

1. コミュニティバス等導入検討については、プロジェクトチームの組織化には至らなかったものの、将来の地域公共交通のあり方について住民主体で考える大きなきっかけづくりができた。

2. 平成28年度から着手した散策マップに基づく標示看板の整備が完了。これにより、地区内を徒歩又は自転車等で周遊することで地域資源の魅力を再発見してもらう環境が整った。

3. 自主防災力向上事業については、講座開催に際し当初予定していた受講対象とは大きく変更となったが、結果的に多様な世代からの受講者を募ることができ、実践的な学習を通して防災への取り組みに男女共同参画の視点を取り入れることの重要性を広く啓発することができた。

8. 今後の展開

1. アンケート調査及び走行実験の結果を十分に分析し、将来、住民主体で運営するコミュニティ交通のあるべき姿について、引き続き地域とセンターが一体となって研究していく。次年度こそ、この研究主体となるプロジェクトチームを立ち上げたい。

2. 設置した標示看板の維持管理責任区分について地域と明確にした上で、この散策コースを活用したイベント等を地域とともに企画することにより、地域資源の魅力を精力的に発信していきたい。

3. 今年度のワークショップの成果品である「小学校施設を使った避難所レイアウト図（案）」について自主防災組織で協議、整理し、男女共同参画の視点を取り入れた避難所レイアウト図を完成させ、地区の避難所運営マニュアル等へ反映させることにより、自主防災力の向上を図る。

1. 八郷地区コミュニティバス等導入検討事業

(1) 平成30年8月7日 講演会の開催

演題：『地域住民と地元企業と行政との協働で走らせる「生活バス四日市」』

講師：NPO 法人生活バス四日市 理事長 西脇良孝氏（羽津地区）



(2) 平成30年8月8日ほか 生活バス乗車体験

八郷地区まちづくり構想実行委員会ほか地区内活動諸団体による体験乗車を随時、実施。



(3) 平成30年9月10日 バスルート案の作成

「八郷地区まちづくり構想実行委員会」

においてプレゼンと意見交換会を実施。

(4) 平成30年12月19日～平成31年1月8日

アンケート調査

無作為抽出された八郷地区内約 1,000 世帯を

対象にアンケート調査を実施。

⇒ 回収率約 90%。コミバス導入を望む声多し。



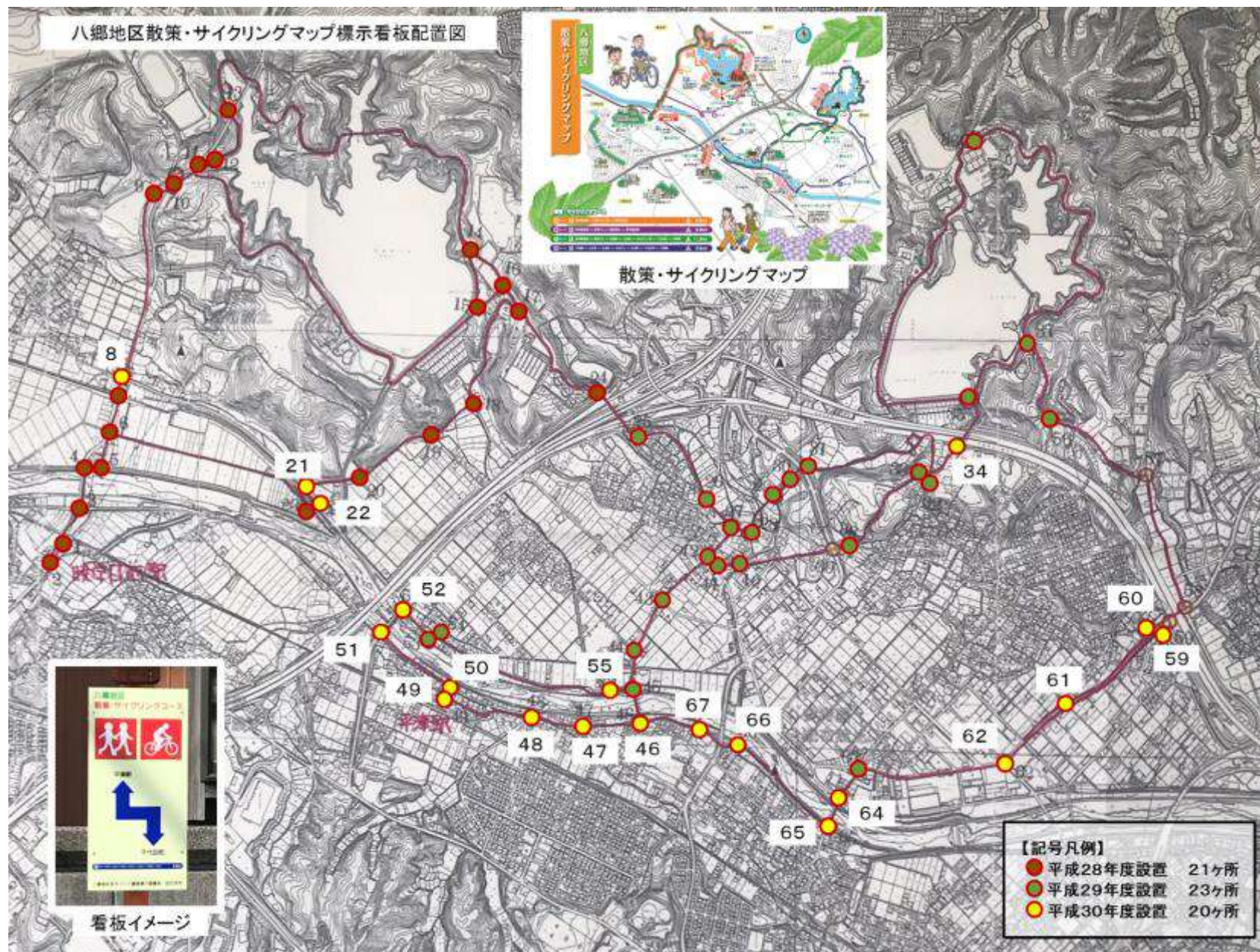
(5) 平成31年3月12日 検討バスルート走行実験

上記(3)により検討されたルート案に基づき、貸切りバス(29人乗り以下の小型バス)による走行実験を実施。

連合自治会ほか、多くの八郷地区まちづくり活動諸団体のメンバーが参加。



2. 散策・サイクリングマップに基づく標示看板設置による地域資源の魅力再発見事業



3. 男女共同参画の視点を取り入れた地域自主防災力向上事業

(1) 防災女子会 ～四日市市北消防署北部分署～

平成30年11月17日(土) 午後2時～午後4時 【参加者33名(うち女性25名)】

①北部分署の紹介及び施設見学



坂崎分署長の講義(1)



坂崎分署長の講義(2)



庁舎内の見学



屋上ヘリポートの見学(1)



屋上ヘリポートの見学(2)



消防車の見学

②ワークショップ 『あなたの非常用持ち出し袋、中身拝見！』



班別ワークの様子



各自、持参した非常用持ち出し品を披露



熱心な意見交換がみられた班別ワーク



家族連れで参加された方々も何組もあり



ワークでの議論の結果を班ごとに発表



班別ワークで出た意見・提案をとりまとめ



主催者側で用意した非常用持ち出し品あれこれ
(協力：四日市市自治会連合会)



「非常用持ち出し袋」の重さを体感！



リュックサックの正しい背負い方を解説



「非常食体験コーナー」を設置



地域活動費で購入した非常用持ち出し品の数々

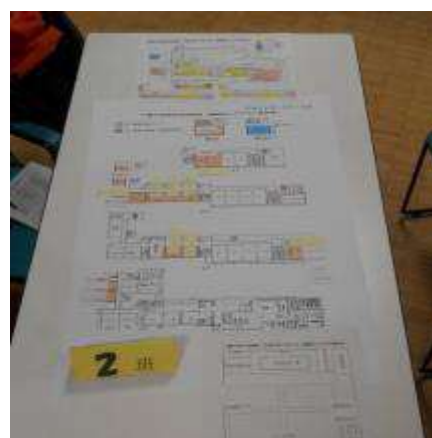
(2) 小学校施設を使った『避難所レイアウトづくり』

①八郷小学校にて (H30.12.15 午後2時～午後4時)

【参加者 24 名(うち女性 21 名)】



浅野先生の講義



ワークショップの成果品の一例



ワークショップの様子



「案内プレート」の掲示を体験

②八郷西小学校にて (H30.12.16 午前10時～正午) 【(参加者 29 名 (うち女性 23 名))】



浅野先生の講義



ワークショップの成果品の一例



ワークショップの様子



「案内プレート」の掲示を体験

③「案内プレート」の掲示と校内巡回の様子

(i)「案内プレート」の掲示の一例（八郷小学校）



(ii) 参加者全員で校内巡回（八郷西小学校）



④両校の校長、教頭にも参加いただいた。



八郷小：加藤校長



八郷西小：近藤校長

平成30年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	世代を超えた地域活動の活性化	地区名	下野
-----	----------------	-----	----

1. 望まれる地域の姿

地域活動や地域社会づくり、防災活動について、世代を超えて参画できる地域

2. 地域の現状

地区防災協議会の参画をはじめとした訓練が行われるなどの取組みが実施されている。

3. 課 題

災害に対する「備え」の重要性を認識し、平常時及び発災後の対応について住民の認識を高めていく必要がある。また、世代間のもとより、近隣住民間の交流と理解を進めていくことが災害時に向けての備えとなる。

4. 実施内容

1 地域の防災・減災意識の向上【新規】

大規模災害時に地域の安全・安心を守るためには、住民自らが防災・減災についての心構えをしておくことが重要であり、災害が起きた時に備えて、まずは住まいから身近な範囲で、注意すべき箇所や起こり得る災害、避難場所、防災関係施設等を把握・確認しておくことが有用である。

そこで、各自治会が自治会区域内について実際に確認し、避難場所や防災関係施設を表示した各町の防災マップを作成した。身近な範囲での現在の状況を改めて認識し、災害に備えた平時からの準備の必要性についても意識する契機とした。

また、専門家を招き、作成した防災マップを用いて、各町において想定される災害や、避難計画の策定をはじめとした当該マップの活用方法、災害時の実際的な対応についての講習会を開催して、地域の防災力の向上を図った。

2 地区ホームページ活用による地域団体活動活性化事業【2年目】

昨年度、地区の情報発信の手段及び地区内の諸団体の絆を深めるツールとして、まちづくり委員会が下野地区の交流型 HP を立ち上げたが、さらに活動を掲載する団体を増やし、地域住民に活動内容を周知して団体活動の活性化につなげる。

また、掲載内容の企画や管理運営を行うための人材育成を支援し、自立し、安定したホームページの運営・管理の一助とする。そこで、新規掲載予定団体への説明や、管理運営を行うための人材育成を行う講習会を開催した。

5. 経費

金額単位:円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
防災マップの作成	委託料	498,960	防災マップ(各町、地区全体)作成
「身近な視点で考える防災講座」の開催	委託料	161,240	講師報償費、会議開催経費 講義用マップ
地区ホームページ運営講習会の開催	委託料	90,000	講師報償費
合 計		750,200	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
1 防災講習会等参加者	40 名	27 名
2 講習会開催	9回以上	9回

7. 成果

- 1 防災マップを作成する際に、地域住民自らが災害関連施設、危険箇所等を確認することで、日常から身近な範囲で自主的な防災・減災についての必要性を改めて意識する契機となった。
また、下野地区全体や、各町で想定される具体的な災害や、防災マップの活用についても講義を受け、地区の防災意識の向上の一助となったと考えられる。
- 2 地区ホームページの新規掲載や管理運営のための人材育成を行うことで、地区団体活動の活性化や、自主的で安定したホームページの管理運営につながることが期待される。

8. 今後の展開

- 1 防災マップを積極的に活用し、世代を超えた住民参加による防災・減災の取組と、それにかかる地域活動の活性化に向けて継続的に取り組んでいく。
- 2 地区ホームページの活性化が持続的に行われるよう、継続した支援を行っていく。

「身近な視点で考える防災講座」



自治会役員会での活用



地区 HP 講習会



平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名

素晴らしい「環境」を継承する
まちづくり事業

地区名

大矢知

1. 望まれる地域の姿

安心して暮らせる生活「環境」を育み、豊かな自然「環境」を守り、歴史・文化的「環境」を次世代に引き継ぐために活動する地域

2. 地域の現状

若年層の人口増加により、世代間のコミュニティが希薄となってきている。一方では、里山などの豊かな自然や多くの歴史遺産が残っている。

3. 課題

大矢知地区では、宅地開発により若年層の人口増加が顕著であり、人と人との繋がりが希薄となり、世代間のコミュニティが弱体化してきている。また、地区内にある豊かな自然や歴史的遺産の認知度も低い。このため、コミュニティの再形成を進めることや、自然や歴史的遺産などの大切な資源や環境を守り生かしていくことが望まれている。

4. 実施内容

1 身近な交流の場づくりプロジェクト【2年目・3年目、一部新規】

地区市民センターや地区内の集会所などを会場として、ゲームなどを行いながら子どもから高齢者までが気軽に楽しめる「街なかサロン」を開催するとともに、生活改善や環境保全を目的としたEM液づくりやダンボールコンポストづくりを実施した。

また、健康増進やコミュニケーションの増進に寄与するため、健康吹き矢体験会を開催した。

さらに、親子を対象としたお菓子づくり教室や、地場産品を使った麺料理教室などを開催した。

	開催日・回数	参加者数
街なかサロン	毎月第3木曜日 12回	208名
EM液づくり	7/13,7/19,11/6,11/15,3/5,3/14の6回	43名
ダンボールコンポスト	6/5,10/2,10/18,2/5,2/14の5回	34名
お菓子づくり	6/30,9/29,12/1の3回	58名
布ぞうり・麺料理	布 8/19,8/25(29名) 麺 2/3(16名)	45名
健康吹き矢体験会	12/2,1/19,2/16,3/16の4回	88名
	計	476名

2 朝明川自然学習公園化プロジェクト【2年目】

朝明川堤防を散策路として整備するため、木竹を伐採し、住民に憩いの場や自然観察の場を提供した。また昨年に引き続き、8月に小学校高学年を対象とした朝明川の生き物観察会を実施した。

	開催日・回数	参加者数
竹伐採作業	年8回実施	153名
生き物観察会	8/26の1回	56名
	計	209名

3 里山保全プロジェクト【3年目】

地区住民が自然と触れあい、親しむことができるよう、地区内にある3カ所の里山周辺の散策路を整備するとともに、四季折々の風景を楽しむことができるよう、樹木の植樹(34本)を実施した。

	開催日・回数	参加者数
保全作業	5/13,6/17,7/15,9/16,11/18,12/9,1/20,2/17,3/17の9回	201名

4 歴史・文化の継承プロジェクト【3年目】

地区内に点在する貴重な歴史遺産や文化を学び、それらを継承していくために、計画的に案内板を設置した。最終年度の本年度は、4カ所に案内板を設置するため、会議で説明文の内容を協議して、案内板の設置を完了し、プロジェクト部員による設置箇所や周辺の史跡を巡るまち歩きを実施した。今後は、住民を対象に案内板を利用したスタンプラリーなどを実施したい。

	開催日・回数	参加者数
設置会議	6/26,9/6,10/25,11/12,11/15,3/4 の6回	66名
設置現場立会い	7/6,11/26 の2回	10名
まち歩き	12/1 の1回	12名
	計	88名

5 「大矢知おどり」普及事業【2年目】

昨年度に制作した大矢知おどりの普及を図るため、中心となって踊っていただく方が着用する法被を作製し、地区運動会にてお披露目を行った。また、地区のまつりや盆踊りのほか、文化会館やあさけプラザで開催された各種団体の舞台発表会などでもPRを行った。

今後も地区内外を問わず、積極的にPR活動を行っていく。

	開催日・回数	参加者数
制作会議ほか	4/11,5/9,5/15,5/16,5/20,11/14 の6回	59名

5. 経費

実施計画予算額 1,200,000 円

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
講師報償費	講座講師謝礼(お菓子・麺料理)	12,000	地元講師
	講座講師謝礼(生き物観察)	20,000	専門家
需用費	講座材料(料理教室・環境講座)	47,235	講座講師、(有)アスムほか
	健康吹き矢資材	83,610	(株)サンキャビン
	里山整備用資機材	261,598	(株)コメリ、(有)アラキヤ
	里山整備用資機材(苗木)	163,080	(有)みどり園
	里山整備用資機材(替刃等)	66,180	(株)コメリ
委託料	案内看板製作・設置	380,160	エクステリア モリタ
	大矢知おどり法被製作	129,600	(有)ウノモリ染工
器具使用料	樹木粉碎機借上げ	29,970	サントウ商事(株)
合 計		1,193,433	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
各プロジェクトへの参加人数及び 講座への参加者数	900人	1,070人 ①身近な交流の場 476人 うち講座・体験会等参加者 268人 ②朝明川公園化 209人 うち生き物観察会参加者 56人 ③里山保全 201人 ④歴史・文化継承 125人 ⑤大矢知おどり 59人
プロジェクトボランティア数	90人	90人 ①身近な交流の場 10人 ②朝明川公園化 25人 ③里山保全 28人 ④歴史・文化継承 18人 ⑤大矢知おどり 9人

7. 成果

プロジェクトスタッフにおいては、自らが住む地域の環境を整備することで愛着や達成感を持つことができ、まちづくり意識の高揚が感じられる。また、自然環境や歴史・文化の保全を通じ、次世代への継承を進めることで、まちづくりが一層推進される。

8. 今後の展開

参加者の固定化を防ぎ、新たな人材を発掘・育成していくために、各種団体と連携を図ることが必要である。また、事業の内容を地区だよりに掲載するなど、さまざまな機会を通じて多くの人に活動を理解していただくとともに、行動していただけるようにPRをしていく。

1 身近な交流の場プロジェクト

(お菓子づくり教室)



(麺料理教室)



(健康吹き矢体験会)



2 朝明川自然学習公園化プロジェクト

(朝明川堤防の竹の伐採作業)



(朝明川の生き物観察会)



3 里山保全プロジェクト

(里山の散策路の整備)

(垂坂観音周辺)



(大矢知観音周辺)



(長倉神社周辺)



4 歴史・文化の継承プロジェクト

(案内板の製作・設置)



5 大矢知おどり普及事業

(法被製作)



平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名 河原田新たなまちづくり事業

地区名 河原田

1. 望まれる地域の姿

みかん山、桜並木など先人から受け継いだ良好な自然環境を守り、伊勢街道が通るまちの歴史や伝統文化を次世代に引き継ぐ活動に取り組むまち。また、まちの将来を担う子ども、高齢者や障がいのある人も安心していきいきと交流し、住み続けられるまち。

2. 地域の現状

近年の人口増加により新旧住民との交流が進まず、地域力(コミュニティ)が弱まる傾向にある。地場産業であるみかんが植生する山、鈴鹿川・内部川などの河川、桜並木などの自然に恵まれており、歴史的景観や伝統文化も残されているが、後継者不足で維持管理が困難となりつつあり危機感を持っている。

3. 課題

天王祭や獅子舞等の伝統文化も残っているが、確実に次世代へ引き継いでいくためには映像や書類等での保存が不可欠であるが、まだまだ未整備である。また、失われてしまった地域行事の記憶も資料も少なくなっている。改めて地域の歴史に向き合い、後世に伝えていく必要がある。

また、みかん山を囲むように竹林が広がっており地場産業であるみかんの木に悪影響を及ぼしているが竹の駆除ができず、みかん農家の高齢化も相まってみかん栽培を断念・放棄するところも増えている。

4. 実施内容

【1】 河原田交流プロジェクト

河原田の歴史を保存継承していくための拠点として、また、歴史好きな地域住民が気軽に集まれる歴史カフェのような場所の設置を目指し、伊勢街道沿いの空き家の調査を実施。丁度、空き家の所有者から土地・建物を地域へ寄付する申し出があり、拠点とするための手続きを進めた。

【2】 みかん山プロジェクト

①忘帰處整備事業

- ・昨年度復活した忘帰處の維持管理のため、地元企業に呼びかけ住民と協力し草刈、清掃等を実施。5月26日(参加者32人(内企業より20人))
- ・お年寄りや子どもが安全に忘帰處の階段を上れるように手すりを設置。
(穴掘り10月20日 18人、手すり取り付け10月27日 17人)

②竹林整備事業

- ・みかんの木を保護するため、みかん山を侵食する竹の伐採を実施。(10月13日 6人)
- ・河原田の竹について地域住民に関心を持ってもらうため、伐採した竹を利用して河原田小学校6年生と地域住民で竹あかりを製作し、保育園児の製作した行燈と併せて竹あかりの点灯式を開催した。(参加者 竹あかり製作 12月1日、5日、7日 106人、行燈製作62人、点灯式250人)
また、年末には竹あかりを忘帰處の階段手すりに設置し、年越しに来た住民にお披露目も行った。

【3】 まちなか整備プロジェクト

地域の防災力向上と次世代育成のため、指定避難所である河原田小学校に小学生と地域住民が協力して「かまどベンチ」を設置した。(基礎づくり10月5日 40人 かまど作り 10月11日 45人)
出来上がったかまどベンチを使って子ども防災講座を実施した。(10月31日 45人)

5. 経費

金額単位：円

事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳
1河原田交流プロジェクト	需用費	67,942	展示パネル、USB等
	備品購入費	81,864	ノートパソコン
2みかん山プロジェクト			
①忘帰處整備事業	需用費	440,970	手すり材料等
②竹林整備事業	需用費	121,078	竹加工用機材等
	委託料	250,000	竹あかり製作及び点灯式
3まちなか整備プロジェクト	委託料	200,000	かまどベンチ製作及び子ども防災講座
合 計		1,161,854	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
忘帰處環境整備参加企業	2	1

7. 成果

- ・忘帰處の更なる整備を進めたことで地域への認知度が増し、高齢者のイベント開催や伊勢街道を歩く観光客が立ち寄って眺望を楽しむなど訪れる人も増えてきた。
- ・地元企業の協力で忘帰處の清掃活動に沢山の従業員が参加し、地域住民との交流も深まった。来年度の企業協力も決まり、この活動を定例化することで忘帰處の維持が可能となった。
- ・各種事業に子どもたちが関わることで保護者である若い世代の参加が増えてきた。地域への関心も持っており、若い世代と交流をすることで新たな担い手の発掘や地域づくりの推進の契機となった。

8. 今後の展開

- ・歴史の拠点整備は空き家を借りる予定が寄付を受けることになり、土地の隣接所有者との調整や手続き等が進まず活動ができるまでの整備には至らず歴史研究会の立ち上げも先送りとなったが、ようやく調整が整い、来年度は歴史拠点として建物の手直し等の整備に着手し活動を開始していく。
- ・竹あかりの製作の楽しさや点灯時の美しさに子供からお年寄りまで感動が広がり、小学校からは地域との交流事業として定例にしてほしいとの申し出もあった。沢山の人が関わることで地域への関心が高まり、地域づくりの推進に繋がっていく。

【忘帰處整備事業】



【竹林整備事業】





【かまどベンチ製作事業】





平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名 地域力を活かしたまちづくり事業

地区名 水沢

1. 望まれる地域の姿

他地区には存在しない広大な自然と豊かで温かい人間関係が作り出す、水沢独特の癒しの空間・時間（水沢時間）を、水沢ファンとともにいつまでも保存し、維持していく。

2. 地域の現状

豊かな自然環境とトップレベルのお茶の生産地であり、また優れた伝統芸能と豊かなコミュニティの維持を積極的に行っているが、人口減少とコミュニティの希薄化がゆっくり進んでいる。

3. 課題

水沢地区まちづくり構想の中で「水沢」の魅力アップを目指す施策が策定されたため、地域の活性化を目指す活動を推進することが必要である。

1. 既存の補助金等では、初期活動の山を越えづらい状況がある。
2. 市（館長）の事業ではなく、地域住民自らで起業しようとの思いが強い。
3. 今後の継続や発展を考慮すると、地域主導の活動が望ましい。

4. 実施内容

① 水沢元気なまちづくりの会事業

地域住民が、自然名勝、歴史・文化資源を活用した地域PR活動（11月25日）や地域PR事業（2月17日）を企画・開催するための打合せや会議をすることによって、地域外との人材交流や情報交換、地域内の新規人材の発掘と人材交流があり、地区内外の絆づくりを行った。

地域PR活動：「もみじ祭り&薬物防止キャンペーン&楽し市&農業まつり」の4事業を同時に開催した。（参加規模：約8,000人、楽し市運営者数：50人）

地域PR事業：「町民マラソン大会」と「町民体力測定会」を、地区外の参加者や協力者を募って、同時に開催した。（参加規模：190人、マラソン&測定会：延べ153人）

② 新旧情報発信アイテム連携事業

YouTubeによる地域や特産品のPR活動を行うとともに、人材発掘や人材交流、情報発信アイテムの充実や情報発信方法の会議等を行った。

③ 新規郷土芸能開拓事業

ご当地ソングのバックダンサーをしていたグループ（5人）が、地区広報や口コミによって賛同者を募り、世代間交流・地域の絆づくりや介護予防のために、地域住民の誰もが参加できるような新規の振付（郷土芸能）の開拓や、既存の踊り（こにゅうどうくん音頭など）を取り入れた練習会や地区内外の盆踊りにも参加した。また、地域の宣伝や地域間交流も兼ねて、四日市文化会館や他地区でのイベントに参加し新規郷土芸能の踊りを披露した。

新規郷土芸能：ご当地ソング「お茶の街水沢（歌手：豊永勇）」の歌&振付

④ 地域案内活動 史跡名勝・保存事業

平成30年3月に竣工した茶業振興センターを訪れた人や水沢地区の幹線道路を通った人に対し、水沢地区の自然名勝、歴史・文化をより知ってもらうための水沢地区案内板をイラスト仕立てで作成し、茶業振興センターの南東に設置して地域PR活動を行うとともに、この作成過程におけるデザインの作成や情報収集、設置場所の選定、設置作業を通して、自然保全活動、人材発掘、絆づくりの充足を図った。

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	マラソン大会消耗品類	14,893	有限会社青商店
	看板用消耗品類	21,600	常磐工芸株式会社
委託料	水沢元気なまちづくりの会事業	630,000	水沢元気なまちづくりの会
	新旧情報発信アイテム連携事業	30,000	水沢地区社会教育福祉推進協議会
	新規郷土芸能開拓事業	60,000	茶葉一ズ
	水沢地区史跡・名勝案内板設置事業	438,480	水沢史跡、名勝保存会
合 計		1,194,973	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
楽し市運営者数	50 人	50 人
マラソン大会参加者数	200 人	190 人
水沢発信特派員数	10 人	0 人
新規郷土芸能開拓者数	20 人	22 人

7. 成果

- ・水沢の自然・産業を活用した地域PR活動や地域PR事業を実施し、地域コミュニティが活性化した。
- ・市の情報発信、情報ツールを利用して、市外への地域PRや水沢ファンの増加を図った。
- ・町民マラソン大会をオープン参加としたことにより地域外の参加者・協力者との交流や情報交換ができ、地域内の新規人材の発掘や地域内外の絆づくりができた。

8. 今後の展開

地域活動の開拓、発展、活性化及び充実並びに、まちづくり構想の実現にむけた人材開発、支援に四日市市が動いていることを実感してもらうため、引き続き地域活動の援助を主体に活動する。

- ・水沢社協や水沢元気なまちづくり会等への支援業務委託を通して地区PR体制（HPやパンフレット、独自商品等）の充実化を図る。
- ・史跡・名勝保存会等への支援業務委託、樹木医等の派遣を通して、地区財産の保全活動、自然環境PR体制の充実化を図る。
- ・地域活動団体（芸能団体等）への支援を行い、地域文化や活動の充実・促進を図る。
- ・新旧情報機器の利用による地区PR体制の充実や講習等により技術者の開拓や交流を図る。など

楽し市



町民マラソン大会



新旧情報発信アイテム連携事業



新規郷土芸能開拓事業



史跡・名勝案内板設置



平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名	自然環境の保全と健康づくり事業	地区名	保々
-----	-----------------	-----	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
豊かな自然環境の保全に地区住民の皆が取り組み、次世代に引き継いでいる。 地区住民が、健康でいきいきとした生活をおくっている。	減少著しく市内では目にする機会が少ない蛍や、自生するコウホネを見ることができるなど、豊かな自然環境に恵まれた地域

3. 課題
地区内の自然保護活動団体である「保々の自然に親しむ会」が地区内の県有地を借用して里山・ビオトープを整備し、小学校や保育園とも連携した自然環境学習や、自然観察会・蛍観察会など自然環境の保全の普及啓発活動を行っているが、会員の高齢化が進み、担い手不足となっている。 また、地域総合型スポーツクラブである「保々ふれあいスポーツクラブ」が健康増進と住民交流のため、各種イベントを実施しているが、参加者が少ないものもある。

4. 実施内容
(1) 遊歩道整備【2年目】 自然保護活動団体の協力を得て、材料支給の方法により里山に擬木の階段（20段）を設置し、里山保全活動を行いやすくするとともに、人々が訪れやすくなるよう遊歩道整備を行った。 （2月24日（日）設置） (2) 里山保全入門講座【3年目】 里山保全活動に興味を持っていただくとともに、自然保護への意識高揚、人材育成を図るため、自然保護活動団体の協力を得て、里山保全入門講座（講義、現地調査、樹名板設置等）を開催した。 （11月24日実施（土）実施。北勢中央公園内の里山保全活動地にて講義、現地調査、樹名板設置 28人参加） (3) ウォーキングマップ作成【新規】 地区住民等が気軽にウォーキングしやすくすることにより、健康づくりを推進するため、保々地区内のウォーキングコース例を紹介するウォーキングマップ（3,500部）を作成した。11月12日（日）実施の保々地区ウォーキング大会で参加者（86人）に配布した後、地区内全戸（約2,300）及び北勢中央公園管理事務所（100部）に配布した。来年度以降の保々地区ウォーキング大会においても、このマップに掲載したコースで実施する予定である。

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	樹脂製擬木階段	151,200	中村機械工具(株)
	樹名板	109,080	内田工業(株)
委託料	里山保全入門講座	110,000	保々の自然に親しむ会
	ウォーキングマップ作成	372,600	(株)イヤマ印刷
合 計		742,880	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
里山保全入門講座参加者数	30 人	28 人
保々地区ウォーキング大会参加者数	100 人	86 人

7. 成果	8. 今後の展開
昨年度に続き遊歩道を整備したことにより、里山が歩きやすく、訪れやすくなり、自然観察会での里山の活用機会が増える。 また、ウォーキングマップを地区内全戸に配布したことにより、地区住民の日頃のウォーキングの機会の増加が期待できる。	三年間実施した里山保全入門講座については、生涯学習事業のひとつとして実施している自然観察会の中に組み込んで引き続き実施し、自然保護活動への参加を呼び掛けていく。 また、ウォーキングマップについては、毎年実施しているウォーキング大会で活用し、地区住民に健康づくりを呼び掛けていく。

保々地区ウォーキング大会（平成30年11月11日）



ウォーキング大会



ウォーキングマップ

里山保全入門講座（平成30年11月24日）



北勢中央公園駐車場で講義



樹名板を設置する参加者

擬木階段設置（平成31年2月24日）



設置作業



設置完了後

平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名 「かいぞう」 魅力アップ事業

地区名 海蔵

1. 望まれる地域の姿

市の観光資源になっている海蔵川堤防の桜並木を中心とした河川敷や菖蒲園を、地区住民を含む市民誰もが自然を感じることができる憩いの空間として利用できる。

2. 地域の現状

春の桜まつりには人が集まるが、それ以外ではせっかくの緑地帯が有効に活用されていない。
桜の木の剪定をはじめ、菖蒲園を含む河川敷周辺の環境保全活動の担い手が地域団体のボランティアが固定化している。

3. 課題

- ① 毎年3月から4月にかけて、海蔵川桜まつりが開催されるが、このまつりの運営が地域のボランティアで構成される実行委員会では実施されている事実があまり知られていない。
- ② ボランティアによる堀川菖蒲園の管理運営や菖蒲園まつりに関わっている人も固定化しており、関心の薄い地域住民も多く、担い手の確保や菖蒲育成技術の伝承が難しい。

4. 実施内容

I. 桜まつり関連事業の記録保存 【新規】

桜まつりの運営が地域のボランティアである状況を広く海蔵地区内外への周知のためと、将来的にも地域のまつりとして伝承していくために、まつりに関わる一連の動きを記録媒体（DVD）で保存するとともに、桜まつり期間中の来場者に視聴してもらうことができた。

さらに、インターネットでも視聴できる環境を整え、地域ボランティアによる「海蔵川桜まつり」の運営実態を広く周知することができた。

① 桜まつり関連事業の記録保存 【事業費：566,406 円】

日常の樹木管理作業や桜まつりに関わる海蔵川清掃など、一連の関連事業を記録媒体（DVD）で保存し、海蔵地区の実行委員会のメンバーである地域ボランティアの皆さんへの視聴を実施することができた。まつり準備作業をはじめ、企画運営に関わる事項について、将来を担う次世代へのノウハウの伝承にも活用できた。

また、環境整備に必要な物品も購入した。

② DVDの視聴機会の提供など 【事業費：197,708 円】

一方、平成28、29年度での事業で実施したアンケートによれば、桜まつりが、地域ボランティアによる運営であるとの認知度（現在の認識度49%）が低いため、今回作成のDVDを、桜まつり期間中に菖蒲園と地区市民センターで視聴できる環境を整備し、海蔵川桜まつりの運営実態を理解してもらうために役立てることができた。

また、将来的な桜の管理のために必要な費用の捻出を図るため、募金箱を設置し桜並木の維持継続に賛同する方々に募金をお願いすることができた。

II. 堀川菖蒲園活性化 【2年目】 【事業費：434,346 円】

海蔵川堤防に併設する「菖蒲園」についても、堀川菖蒲園花菖蒲育成会により育成管理が行われているが、より効率的、活性化のための施策を支援した。

平成29年度において、専門家による菖蒲の育成講義などをはじめ管理の助言指導を受けたところであるが、これを継続し、また、生育環境をよりよくするための土壌整備、資材の整備などを行った。

また、菖蒲育成に関わったことのない人がみても理解しやすい「管理マニュアル」（平成29年度作成）を活用して、実際の管理は勿論のこと、除草などの実際の作業に参画する人材の発掘を行うとともに、周知に必要な増刷やマニュアルの改訂にも取り組んだ。

5. 経費

金額単位：円

事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳
さくら魅力アップ事業	委託料	496,800	DVD 制作委託
	委託料	21,600	DVD 調整
	需用費	48,006	剪定はさみ、チェーンソーチェーン 燃料
	需用費	146,340	DVD 視聴機材(モニター、再生 機器)
	需用費	29,768	募金箱 2 台
	需用費	21,600	スクリーン台、募金箱台
菖蒲園環境整備事業	委託料	423,812	擁護壁制作、管理マニュアル他
	需用費	10,534	噴霧器、除草剤ほか
合 計		1,198,460	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
桜まつり管理運営が地域ボランティアである認識度	70%以上 (現在の認識度 49%)	67.2%

7. 成果

- ・堤防を含む河川敷の保全に関する情報を地区内外に発信し、桜並木や菖蒲園の保全活動に関心を持つ人を増やすことに取り組めた。
- ・海蔵川河川敷の環境が保たれ、憩いの場として市民の利用が増えた。

8. 今後の展開

毎年桜の木の手入れや河川敷の清掃により、良い環境が保たれ、健康づくりや運動の場としての利用に向けての取り組みも進み、海蔵川河川敷が憩いの場として四日市市の中心的位置を占める緑地となる。

さらに、四日市市の観光スポットとしての海蔵川桜まつり、堀川菖蒲園の PR を行っていく。

〔海蔵川桜まつり（右下：DVD）〕



〔堀川菖蒲園〕



平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名 TSUNAGARU 橋北～2018

地区名 橋北

1. 望まれる地域の姿

世代を超えて助け合えるようなコミュニケーションが豊かなまちとなり、多様な世代の住民が地域の課題を自ら解決していけるような地域となる。

2. 地域の現状

地域住民が減少し高齢化が進んでいるなかで今後のまちづくり活動を支える人材が不足している。
地域の課題は関係者が個別に認識をしているが地域全体として課題を共有したうえで解決する取組みに繋がっていない。

3. 課題

橋北地区都市計画マスタープランに基づき各種団体がまちづくり活動を展開しているが、高齢化の進展に伴い地域づくりを支える人材が不足していることから、現在活動している世代の次の世代でまちづくり活動に取り組もうとする意欲のある人材を発掘、育成し、地域の課題解決に向けた様々な取組みが展開できるような雰囲気を作り出すことが必要である。

(1) 高齢化が進む地域での支え合いのセーフティネットの強化が必要

高齢化が進む地域において各種団体が活動をしているなかで介護保険制度ではサービス対象とならない部分を住民が支え合えるような仕組み作りが不可欠であるが、「介護」「認知症」という課題が住民に十分に直面する課題として共有されていないことから地域の課題として認識し、それを支え合う組織や取り組みを行う必要がある。

(2) 大規模災害への備えが必要

三滝川と海蔵川に囲まれた地域であり大規模災害に見舞われるリスクが高い地域であるが、高齢化が進んでいるなかで、平常時からの「備え」、発災後の「備え」について住民の認識が十分なものになっていないことから大規模災害への心と体制の準備が十分でない。

(3) 地域の素晴らしさ再発見・誇りを持てるまちづくりの視点が必要

地域の財産である萬古焼300年を契機に住民がその良さを理解することで地域に誇りを持って暮らしていけるようにするとともに、地域の多様なメンバーが参加するプロモーション活動に参画することで今後の地域活動を支えることのできる人づくりに繋げることが必要である。

4. 実施内容

(1) 高齢化が進む地域での支え合いのセーフティネットの強化（2年目）

- ①多様な年代が興味を持って参加できるような連続講座（7月、8月、1月）を開催するとともに、ハピサポフェスタ（1月）を実施し、高齢者や介護に関する知識を幅広い年代に広め、地域のセーフティネットの強化に繋がる取組を行った。
- ②①に加え、高齢者と子ども子育て世代の交流のための取組を支援した。

(2) 大規模災害への備え（2年目）

地域の防災組織とともに大規模災害発生時に地域における災害活動の中心的な役割の一端を担う中学生を対象にした講座、小学生を対象にした各種防災授業を実施し、そこに地域の多様な主体が参加してもらうことで地域の防災意識の高揚と理解の深化に努めた。

(3) 地域の素晴らしさ再発見（1年目）

地域の財産である萬古焼を活かした8月高校総体に際してのおもてなし事業、花とみどりいっばい事業とともに高校総体会場を花で彩るような取り組みを実施し、地域の再発見に繋げるような取り組みを行った。

5. 経費

金額単位：円

事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳
セーフティネット事業	委託料	283,656	
高齢者理解向け連続講座	報償費など	42,500	
地域防災ワークショップ	委託料	240,000	
地域の財産でおもてなし事業	委託料など	304,245	
合 計		870,401	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
①セーフティネット強化事業	連続講座参加によるコメンタリー確保	8人
②防災・減災事業	ワークショップ参加者数	28人
③地域再発見事業	実行委員数	10人

7. 成果

各事業を実施するに当たっての調整の過程や事業を通じ各課題への取組みの必要性を認識してもらえたことができた、

これとともに、各事業以外にも地域の団体や各施設と「地域における多様な主体の交流の必要性」という点を共有することができた。

8. 今後の展開

地域における多様な主体（特に高齢者と子ども）の交流が今後の地域社会づくりにとって必要であるという認識が共有できた部分を発展させるために今後も継続的に取り組みを行う。

（ハピサポフェスタ）



(地域防災ワークショップ)



(地域の財産でおもてなし事業)



平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名	中部地区の歴史・文化☆再発見事業	地区名	中部
-----	------------------	-----	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状																																																
中部地区にある歴史的、産業的、文化的資源の重要性を再認識し、住民が誇りを持てる地域。	歴史的、産業的、文化的資源がある。住宅、商店街、工場等が混在している。高齢化進展著しい。																																																
3. 課 題																																																	
中部地区内には、歴史的、産業的、文化的資源が多数存在するが、これらの資源を十分認識し、活用するには至っていない。資源のさらなる活用を図り、地域の活性化に役立てる余地が残っている。																																																	
4. 実施内容																																																	
① 「中部地区ふるさとマップ」電光表示板の現イラストマップをデジタルデータ化 ② 地域からの要請を受けた東海道ののぼり、ミニのぼりの製作																																																	
5. 経費																																																	
金額単位：円																																																	
<table><tr><th>事業項目（種目）</th><th>支出科目</th><th>支出金額</th><th>内訳</th></tr><tr><td>ふるさとマップデータ化</td><td>委託料</td><td>27,000</td><td></td></tr><tr><td>東海道のぼり、ミニのぼり</td><td>委託料</td><td>216,540</td><td>のぼり100、ミニのぼり50</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>合 計</td><td></td><td>243,540</td><td></td></tr></table>		事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳	ふるさとマップデータ化	委託料	27,000		東海道のぼり、ミニのぼり	委託料	216,540	のぼり100、ミニのぼり50																																	合 計		243,540	
事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳																																														
ふるさとマップデータ化	委託料	27,000																																															
東海道のぼり、ミニのぼり	委託料	216,540	のぼり100、ミニのぼり50																																														
合 計		243,540																																															
※ 詳細別紙																																																	
6. 目標及び実績																																																	
<table><tr><th>指標</th><th>目標</th><th>実績（見込）</th></tr><tr><td>マップ整備会議委員</td><td>5名</td><td>0</td></tr><tr><td>ビデオ制作会議委員</td><td>5名</td><td>0</td></tr></table>		指標	目標	実績（見込）	マップ整備会議委員	5名	0	ビデオ制作会議委員	5名	0																																							
指標	目標	実績（見込）																																															
マップ整備会議委員	5名	0																																															
ビデオ制作会議委員	5名	0																																															
7. 成果	8. 今後の展開																																																
当初の企画どおりには実績を残すことができなかったが、歴史的文化的資源のひとつである東海道への注目は年々高まってきているため、地域の要請により製作したのぼり・ミニのぼりは当地区の魅力の再認識にはつながっていくと考えられる。	デジタルデータ化した「中部地区ふるさとマップ」の更新整備や東海道への注目に寄与する施策の選定																																																

平成30年度 地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名 地域コミュニティ活性化促進事業

地区名 楠

1. 望まれる地域の姿

- ・生まれて良かったな、住んで良かったなと実感できる安心、安全かつ魅力と誇りを持てる地域
- ・自助、共助、公助について、それぞれの家庭や地域の中でお互いに理解し、支えあい助けあうことができるコミュニティ豊かな絆の強い地域
- ・地域のことは地域住民が決定し、個性的で豊かな地域社会を築くことができる地域

2. 地域の現状

- ・年々高齢化が進んでおり、また、高齢者だけの世帯も増加している。
- ・四日市唯一の自然海岸を含め、自然豊かで古くからの産業も息づいている。
- ・まちづくりを支える多様な団体が活動している。

3. 課題

- ・まちづくりの基盤の一つである自治会を含めた各種団体に参加・加入する人が年々減少するとともに、担い手の高齢化が進んでおり、担い手の若返りが急務である。
- ・人と人との交流や団体間の繋がりについても、年々希薄になってきている。
- ・多くの団体が地区住民のために活動しているが、住民に浸透していないことなどから、不安や課題が生じて、どこにも相談できず一人抱え込んでしまう状態が見受けられた。
- ・人材面、資金面でイベント等の継続実施が困難になってきている。

4. 実施内容

地区テーマである『ずっとこのまちで』を主眼におき、以下の事業を実施した。

1 田んぼアート【新規】

これからの「まちづくり」を進めるための人材、資金などの課題解決のため、田んぼアートをツールとして、地域住民だけでなく、企業とのマッチングを視野に入れた活動の可能性について探った。その結果、株式会社ファーストステップ様が名乗りをあげ、楠地区まちづくり検討会と資金援助を含めた協力を行う旨の協定書の締結に至った。

来年度以降は、市の一般施策を活用しながら継続実施する予定である。

(1) 実施日 5月12日（田植え）～11月3日（収穫祭）

(2) 主な事業内容 ①田植え ②稲刈り ③見学会

2 地引網【2年目】

地引網をツールとして、地域の方々に自治会の活動に理解を深めてもらうとともに、加入促進を図った。

また、単に地引網を開催するだけでなく、地引網のチラシの裏面に自治会の役割等を掲載するなど、自治会の啓発を目的とした情報発信を行った。

来年度は参加者から参加費を徴収するなど、継続実施の仕方を模索する予定である。

(1) 実施日 9月2日

(2) 主な事業内容 ①地引網参加案内及び自治会啓発チラシの配布 ②地引網体験会の実施

3 くすりんフェスタ【3年目】

認知症を広く理解してもらうための講座を開設するほか、住民の方にRUN伴への参加を促した。

来年度以降は、地域社会づくり総合事業費補助金を活用して継続する予定である。

(1) 実施予定日 10月3日（土）

(2) 主な事業内容 ①認知症サポーター養成講座 ②RUN伴への参加及び応援

4 楠っこフェスティバル【新規】

開園予定のこども園に対し、幼稚園、保育園、未就園児を持つ保護者の中に不安を抱える方々が多く見えることから、この不安を解消するイベントを楠地区民生委員・児童委員協議会に委託することで、地域の中での子育て環境の強化を図った。

平成33年4月にこども園の開園が予定されていることから、来年度も継続実施の予定である。

- (1) 実施予定日 10月27日
 (2) 主な事業内容 ①保育園児、幼稚園児による発表会 ②親子工作教室など

5 1日先生【2年目】

楠小学校全児童を対象に、地域で活躍する人や各種地域団体等が先生となった様々な分野の教室を開催することで、小学生とその保護者に地域団体を紹介するとともに、地域の中での子育て環境の強化を図った。

- (1) 実施予定日 9月22日
 (2) 主な事業内容 ①文化 ②スポーツ ③消防 ④科学 など

6 情報発信事業【2年目】

楠地区市民センターのロビーなどを活用し、地域活動団体や楠地区の歴史、自然、産業などを紹介するとともに、地区住民の交流を図るスペースなどを設けた。

また、楠小学校全児童を対象に「こども広報くす」を発行し、イベントや地域団体のほか、地域の見どころなどの周知を図った。

- (1) 主な事業内容 ①啓発用パネル等の作成及び展示 ②「こども広報くす」の発行 など

5. 経費

金額単位：円

事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳
田んぼアート	委託料	210,000 円	
地引網	委託料	300,000 円	
くすりんフェスタ	委託料	100,000 円	
楠っこフェスティバル	委託料	200,000 円	
1日先生	委託料	200,000 円	
情報発信事業	需用費	180,328 円	ロール紙、色上質紙、インク、デスクライトなど
合 計		1,198,100 円	

6. 目標及び実績

※ 詳細別紙

事業名	指標	目標	実績（見込）
田んぼアート	協力企業	2 社	2 社
地引網	ボランティアスタッフ参加者数	31 名	31 名
くすりんフェスタ	RUN伴参加者数	25 名	20 名
楠っこフェスティバル	参加児童数	300 名	312 名
一日先生	参加者数	641 名	419 名
情報発信事業	展示団体	7 団体	7 団体

7. 成果	8. 今後の展開
・地域の多くの方に自治会をはじめとした地域団体を知ってもらい、団体活動やイベントに理解を示してもらうことができた。 ・地域だけでなく、企業等と協働でまちづくりに取り組む環境が整った。 ・団体紹介ポスターを制作する中で、該当団体やセンター職員も団体の活動や意義等について改めて整理できた。 ・地域社会づくり総合事業費補助金等を活用したイベントの目的、必要性等についても見直すことが出来た。	・田んぼアートは、企業と協働して継続的に実施する。なお、来年度から国体をPRしていく予定である。 ・地引網、くすりんフェスタ、一日先生は受益者負担も視野に入れ、地域社会づくり総合事業費補助金での実施を検討する。 ・楠っこフェスティバルについては短期的な課題であることから、引き続き地域活動費（館長権限予算）を利用する予定である。

広報抜粋

地域活動事業 地引網体験を開催しました。

自治会をもっと知っていただこうと9月2日(日)に楠地区連合自治会と四日市市の共催で地引網体験を開催しました。

三重県職員による伊勢湾の魚についての勉強会のあと、待望の地引網が始まると参加者は二手に分かれ、力を合わせ重たい網を一杯引っ張りました。

地引網の終了後、自治会が用意してくれたバーベキューに舌鼓をうち、最後の夏休みを堪能したのではないのでしょうか。

これからも、自治会活動にご理解とご協力をお願いします。



参加者から一言

「私は、初めて地引網漁を体験しました。地引網漁は、みんなの力を合わせて網を引っ張らなければできない漁だ知りました。

友だちと一緒に地引き網をしたり、知らない人と話をしながら食べた魚のおさしみや焼きそばは、とてもおいしくて、おなかいっぱい食べました。

自治会の方に企画してもらったイベントで色々教えてもらったり、知らなかった楠の事が分かって楽しかったです。

また次も参加したいです。」



あかり
坂倉朱里さん

地域活動事業 「一日先生」を開催しました！

9月22日(土)に、楠小学校の児童を対象にした「一日先生」を昨年に引き続き開催しました。

この事業は、楠地区や四日市市内で活動する地域の方々が、楠地区の子どもたちが様々な経験を通して“生きる力”を育んでいけるようにと、教室を開催していただきました。

地域の方々の温かいご指導や言葉がけで、子どもたちはクラスや学年を超えて楽しく・真剣に学んでいました。

これからも、地域を上げて未来ある子供たちを育てていただきますようお願いいたします。



私は、一日先生で、「新聞で食器を作る」教室を受けました。

防災の難しいはなしをするのかなと不安でしたが、クイズ形式で楽しかったです。工作は得意ではないので作るのに戸惑っていたら、先生が優しく教えてくれました。

このイベントでバレーボールもできるようになりました。

私は六年生なので来年からは参加できませんが、この一日先生をこれからも続けてほしいです。

教室を開いてくれた地域のみなさん、ありがとうございました。



はやし
林 あいみ
亜依美さん

地域活動事業 RUN伴 2018&くすりんフェスタを開催しました。

10月13日(土)に楠地区社会福祉協議会を中心に、楠在宅介護サービスセンターゆりかもめなどが協力し、「認知症サポーター養成講座」の開催とRUN伴を応援しました。

RUN伴では楠地区の中高生が大人に交じって認知症患者さんと一緒に北楠の一号館から南楠のセブンイレブンまで、タスキをつなげました。その中間点となる「ゆりかもめ」で多くの方々が太鼓の元気な音とともに、ランナーを出迎え、また、タスキを受け取った認知症患者さんたちを送り出しました。

認知症の方だけでなく、住み慣れたこのまちで笑顔で安心して暮らすためには、地域の皆さんの理解と助け合い、支え合いが必要不可欠です。

身近なところから理解を深め、助け合い、支え合いの輪を広げてみませんか。



参加者の一言

私たち高校生4人は『RUN伴』にランナーとして参加しました。

『RUN伴』はランナーとして参加しただけでなく認知症についても学ぶのがよい経験になりました。

この経験を通じて認知症について広く知らせるとともに『RUN伴』について多くの人々に知って欲しいと思いました。このような活動にこれからも積極的に参加していきたいと思っています。



左から

中村侑雅さん

中村唯杜さん

岸田茉里耶さん

柴田夢来さん

地域活動事業 KUSUNOKO 楠こどもフェスティバルを開催しました。

10月27日(土)楠北幼稚園で「楠こどもフェスティバル」を開催しました。

当日は200名を超える親子にご参加いただき、参加した子ども達は、保育園、幼稚園などの区別なく、元気に走り、踊り、演じていました。こども園化に対する不安も少し和らいだのではないのでしょうか。

また、今回フェスティバルを開催していただいた楠地区民生委員、児童委員協議会のほか、楠地区連合自治会や楠地区社会福祉協議会、楠在宅介護サービスセンターゆりかもめなどの多くの方々が、子ども達だけではなく、高齢者など地域の方々を見守り、支援しています。

不安やお困り事は一人で抱え込まず、身近な方にご相談してはいかがでしょうか。



参加者の一言

楠こどもフェスティバルに家族で参加させて頂き、子どもたちと楽しい時間を過ごすことができました。楠中学校吹奏楽部の皆さんの演奏から始まり、楠北幼稚園、楠南幼稚園、楠南保育園の5歳児の子どもたちが一つになって体操や歌、運動会の演目やリレーに取り組む姿に感動しました。

フェスティバルの為にご準備頂いたものを見て、楠町は地域の方々の支援が充実していて、恵まれた環境で子育てできているのだと感じました。また、子どもたちにとっても、このフェスティバルは小学校入学前に繋がりを生む良いきっかけになったと思います。

企画運営頂いた、楠地区民生委員児童委員協議会の皆様と先生方、地域の方々に本当に感謝いたします。ありがとうございました。



森 美樹さん

香帆ちゃん

地域活動事業 田んぼアート収穫祭を開催しました。

11月3日（土）、楠地区まちづくり検討委員会との共催で「田んぼアート」収穫祭を開催しました。5月に行った田植えから途中台風もありましたが、無事に皆様の口元までお米を運ぶ事が出来ました。その他のイベントも同じですが、イベントの裏側には関係者のさまざまなご苦労があります。

田んぼアートも一時中断していましたが、新たに株式会社ファーストステップ様、三重北農業協同組合様の協力を得て、2年ぶりに再開することが出来ました。さらに、楠地区まちづくり検討委員会は株式会社ファーストステップ様と田んぼアートに関する協定を結び、今後の継続に目途がつかしました。

これからの「まちづくり」は多様な方々の協力が必要となってきます。今回の取り組みが参考になることを願っています。

参加者の一言

私をはじめ参加した社員にとっては、田植えや稲刈りなど初めての事ばかりで、とても楽しく参加させていただきました。

当社は四日市市に本店を構える技術系・事務系の人材派遣会社です。今回の出会いを大切に、当社のもつネットワークや資源を活用し、田んぼアートの普及に協力させていただこうと、本協定を締結いたしました。

田んぼアートを契機として、地域の皆様と一緒に若者がUターンしやすい環境を整え、さらなる地域の活性化に貢献していきたいと考えています。

皆様のご理解とご協力をお願いします。



株式会社 ファーストステップ 代表取締役 松本 圭介



団体紹介ポスター例

自治会

自治会とは、同じ町内で暮らしている人たちが集まって運営する組織です。

住民の方々が快適に生活できるよう、日頃利用しているごみ集積場や防犯外灯の管理のほか、地域の安全を守るため、鈴鹿川の治水整備の要望も行っています。また、高齢者を敬う敬老会の実施のほか、街角くらぶや、納涼祭の実施、公園の管理なども行っている自治会もあります。

自分ひとりで問題を解決することは限界があり、また、行政が自分に変わらねば問題を解決してくれるの限界があります。自治会はひとりで解決できない問題を、みなさんに少しずつ負担してもらい、助け合い、地域として問題解決に取り組んでいます。

一人一人の力は弱くとも、みんなが集まれば大きな力になります。ぜひ自治会にご加入いただき、一緒に暮らしやすい町にしていきたいです。

自治会はこのよう取り組みを行っています

1. 地域の安全のために

地域の皆さんが安心して暮らせるよう、防犯外灯の維持管理をおこなっています。

また、雷や大雨に対し、災害対策の要望を行うとともに、台風などの災害時には市と連携し、避難者の保護等に努めています。



2. きれいなまち・環境整備

ごみ集積場の管理など、地域の環境美化に努めています。このような日頃の活動が、綺麗で快適な街づくりにつながっています。



3. 住民の交流

お祭りやスポーツなどのイベント、地域住民同士の交流機会を提供し、住民同士が繋がる関係を築いています。また、各種団体と協力して伝統文化を伝承するなど、横のつながりも広がっています。



4. 暮らしやすいまちに

地元の方しきわからない、身近な道路や水路の整備など、地域の意見をまとめ、市に要望を行っています。

また、各種団体と協力して地域の子どもたちや、高齢者の見守り等を行っています。



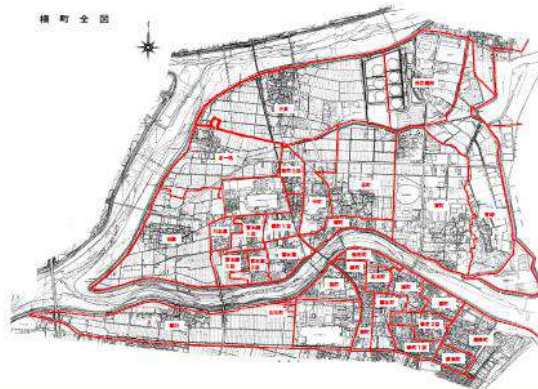
もしも、自治会が無くなったら

- 楠地区内に1000灯を超える防犯外灯がありますが、そのうち900灯の防犯外灯は楠地区連合自治会が設置し、電気代を支払っています。自治会が無くなったら、楠地区からこの900灯の防犯外灯のありがたみが消えてしまうかもしれません。
- 家庭から発生するゴミ。このごみ集積場の管理を自治会が行っています。自治会が無くなったら、毎日のゴミをどうやって捨てるのでしょうか。
- 夏の楽しみとなっている納涼祭や敬老会。これは各単位自治会が実施しています。自治会が無くなったら、こうした楽しみも無くなるかもしれません。
- 行政に地域の声をとってくれるのも自治会の役割です。身近な道路の補修や改修もその一つです。自治会が無くなったら、楠地区の声をどうやって行政に伝え、実現させていくのでしょうか。

楠地区連合自治会

連合自治会とは、楠地区内に30の自治会を取りまとめる組織です。例えば鈴鹿川クリーン作戦や運動会、敬老会のように楠地区全体で行った方が良行事や、土木要望（道路の拡幅やカープミラーの設置など）のように楠地区全体で計画的に行った方が効果的な事業、鈴鹿川の治水対策のように楠地区全体に関わる問題などについて、各自治会の意見をとりまとめ、楠地区社会づくり推進協議会や楠地区社会福祉協議会などと一緒に活動あるいは行政に働きかけています。

楠町全図



楠地区連合自治会組織図



こども版



広報くす



平成31年 ふゆ号

発行 阿日市 緑地区市民センター
〒510-0192 阿日市神奈北五路2-2000番地72
電話(059)398-3111 Fax(059)397-5754
Webサイト: <https://kusumachi.net>

たのしくあかるといふにしようよ、
みなさんとあかるといふにしようよ
がイベントをかいさいしています。
みなさんもお楽しみください！

かきかき、
げんきにしようよ
かな？

キッズクッキング はるやすみ

～ピザづくりにチャレンジします～

日 時: 3月27日(水) 9時30分～
場 所: 緑地区市民センター 3階 調理室
持ち物: エプロン・ふきん・タオル
参加費: 700円
定 員: 20名 小学1年～6年生 (定員になりしめきり)
申し込み: 3月20日(水)まで 緑地区市民センター窓口へ、またはお電話で
お申し込みください。
お問い合わせは 緑地区市民センター 電話 398-3111

「橋のさくら」

春になると橋の両側でもたくさんのさくらが咲きます。
花が満開になるとピンクのトンネルを楽しむことができる宝町の桜並木は、昭和25年、
戦後の町をさくらで飾ろうと地元の高年組によって植えられました。(参考資料: 高年組会誌)

うでもさくら保存会が受け継ぎ桜並木を守っています。
小学生のみなさんにも将来、大切に受け継いでいってほしいと思います。
その他にも緑地公園や小瀬地区、軍町地区でもさくらを楽しむことができます。
春になったら、さくらを探して町を歩いてみませんか？(中略)



市民センター図書室 (市民センター1階)

あたらしい本が入りました。本を読む時間をつくりましょう

「うしろぼうしと魔法」 おおぼうしあはれる
「ノタンズゴロ」
「はりねずみのルーチカ かきのおとしもの」
「はりねずみのルーチカ リンゴとれるかな」
「わんぱくだんのはらっぱジャングル」

本の借り方 平日8時30分～5時まで開いています。
一度に3冊まで本を借りれます。
貸出票と借りたい本を市民センター窓口のカウンターまでお持ちください。
貸出期間は2週間です。

本の返し方 窓口のカウンターへお持ちください。

つどやき

しみんセンターのとしよしも、たくさんのおもちゃがきてくれるようになってきました。こんな本が
よみたい！と本のリストがあればおしえてください。お待ちしております。図書館までY&W

イベントのあんない

◆緑小学校児童の人権ポスター展におこしくさい

みなさんが描いたポスターを展示します。ぜひ見に来てください。

場 所: 緑地区市民センター1階ロビー

期 間: 2月16日(土) 13時～ 3月1日(金) 小学1・3・5年生の作品
3月2日(土) 13時～ 3月15日(金) 小学2・4・6年生の作品
時 間: 平日8時30分～17時15分 土曜日は10時～17時 日曜日は休館
※2月16日(土)と3月2日(土)は展示作品のため13時～となります。
主催: 緑地区人権教育推進協議会

くわしくは 緑地区団体事務局 電話 398-3121

◆移動児童館

みんなであそび遊ぼう！

日 時: 2月19日(火) 14時30分～16時
毎月第3火曜日に開催しています。
場 所: 緑地区市民センター3階 301会議室
内 容: シャトルびなを作ろう ほか
参加費: 無料

シャトルびな
ってなんだろうね？
果てのお楽しみ！

主催: 緑地区民主義児童委員会協議会
くわしくは 緑地区団体事務局 電話 398-3121

◆吉崎海岸清掃

きれいな海岸をずっと守ってきたいですね。

毎月1回 第1日曜日 朝8時から吉崎海岸(緑地公園近く)にて
8時～砂浜清掃と外果物回収
9時～海の楽しい勉強会
くわしくは 緑地区団体事務局 電話 398-3121

◆本郷湯の花神事 本郷村神社 3月10日(日) 13時～

本郷村神社で春の大祭の時に行う行事で、五穀豊穡(農作物がたくさんできる)に、
無病息災(健康である)を願って行われます。

◆緑地公園 桜まつり 緑地公園内 3月30日(土)

11時～12時 模擬店(焼きそば、焼き肉、みだし団子3本、すべて100円)
餅汁は無料です。

主催: 北五味町連合自治会 共催: 北五味町子ども育成会

◆宝さくら祭り 宝酒造前 桜並木 4月7日(日)

11時～14時 トラックスターショー(小瀬談行)
11時～14時 小瀬にて舟遊び(小瀬談行) 有料
10時30分～14時 模擬店(小瀬談行) 有料

主催: 緑地区まちづくり検討委員会
宝さくら祭り実行委員会
鈴鹿川たんけんクラブ
くわしくは 緑地区団体事務局 電話 398-3121

◆こどもサークル!

みなさんがげんきにかつどうしてほしいな！

○和太鼓『橋っ鼓 流雲』 毎月水曜日夜7時～
緑地区公民館にて練習

○キッズダンス『CHERRY』 月1回 第2土曜日夜10時30分～
緑地区市民センター3階にて練習

○歌と楽器の演奏『くすおんがくらぶ』 月1回 第1土曜日夜10時30分～
緑地区市民センター3階にて練習